

大特集 なぜ私たちは寄付をするのか?

大学の力になりたい、その思いを表す一つの方法が寄付だ。 1968年に入学した16期は、老朽化が進んでいたシーベリーチャペルの改修のため募金活動を行い、 同期だけで300万円、合計700万円を超える寄付を集めた。 なぜ寄付をするのか、そしてなぜ寄付をしないのか。

16期の募金活動体験談と、募金活動の現状について同窓会大学・募金部の鼎談をお届けする。

16期が中心となって行ったシーベリーチャペル募金活動報告

文: 大西直樹(16) 写真: 藤井泰夫(16)

第16期卒業生は1968年4月と9月に 入学した学生で、その総勢は260人だ った。入学時は平穏無事であったキャ ンパスが急に政治色を強め、翌年の4 月以降半年以上もキャンパスの閉鎖を もたらす「三項目闘争」*が勃発した。 2年生となるはずの4月には学生スト ライキが始まり、そのまま夏休みを終 えて秋学期となってもクラスは持たれ なかった。大学は授業再開のため本館 とキャンパス周辺に塀を構築し、その 塀を通って授業に参加する者と、拒否 して結果的には卒業を遅らせた者とが 分断された。その結果、16期生は深 刻な相互不信に陥ることになった。同 じセクション内でも深い亀裂が生じ、 後遺症は何年経っても癒されず、16 期は同期会もなく、必然的に大学に対 する寄付も最少額しか集まってこなか った。

せめて1度だけでも同期会を

私は、1981年に専任となって以来 定年まであと5年となった頃から、せ めて1度だけでも同期会を開催するの が、この大学に同窓生として残った者 の責務ではないかと思い始めた。ある 日、同期の中内俊一郎さんにその思い を告げたところ間髪を入れずに、「や りましょう」と快諾をいただき、彼 を中心に何人かに声をかけた幹事役と 相談を重ねて、第1回の同期会が開催 されたのは2015年の春だった。紛争 以来キャンパスに足を踏み入れたこと のない人も多い中、どうなるかと心配 されたが、意外にも36人が集まった。 ロックアウトしたN館で作った食事の 話など、紛争時の思い出話に花が咲き 大変活発な会となった。そして、毎年 1度の同期会開催も賛同を得て、行方 不明者の所在も判明し始めた。

2018年には入学50周年を迎え、大学からの招待を受けて入学式の再演がなされ、メインチャペルで一人一人名前を呼ばれて参加者81名が起立する

という50年前の入学式を思い起こす 集いとなった。

幹事会では、これも中内さんの提案 で、その返礼に大学への寄付の動きが ほぼ数ヶ月以前から始まっていた。い くつか提案された募金目的の中で中内 さんが特にシーベリーチャペルの現状 を嘆き、その改装を取り上げると幹事 会は彼の意見に賛同した。そして、大 きな弾みを与えた出来事がウィリア ム・スティール教授の授業で起きてい た。彼は1968年の春、御殿場の東山 荘で開かれた16期生のフレッシュマ ンリトリートに、カリフォルニア大学 からの最初の交換留学生として参加し ていたので、いわば同期生だったのだ。 彼の担当する大学の歴史を扱うクラ スで、アメリカ人留学生、リア・ミラ ーさん(2019年6月卒業)が期末のレ ポートとして提出した、"A Mysterious Chapel in the Wood"がシーベリー チャペルの調査レポートだった。こ のチャペルは16期生の学生時代には、 様々な印象に残る集会がかなり頻繁に もたれており、森有正、椎名麟三など 著名人の講演会や、専攻別の集会、卒 業生の結婚式や葬儀など多様な活動が 営まれていた。ところが、換気不全 によるカビ臭さなどのため、学期中に 週一度使われるかどうか、という使用 頻度となっていた。彼女のレポートは、 このチャペルの由来について、シーベ リー女史やチャペル建設の背景に光を 当てたものだった。

そのチャペルが、ルース・イザベル・シーベリー女史(1892-1955)を記念した建物であることは推測がつくにしても、いったい彼女がこの大学とどのような関わりがあったのか、その事実を周知している人はわずかであった。ミラーさんのレポートをきっかけに、彼女は戦時中アメリカで過ごした湯浅八郎初代学長の生活をカリフォルニアの自宅で家族とともに面倒をみ、戦後来日して同志社大学総長となった

彼の活動を支援した宣教師で、27ヶ 国を巡り様々な宣教活動に一生を捧げ た女性だった。1959年、彼女を記念 するチャペルが建設されたが、建設費 用はアメリカのダンフォース財団から の支援でなされた。同財団はアメリカ 本土の大学23校に同様の機能を持っ たチャペルを寄贈していたが、その一 連の最後のチャペルとして建設される こととなり、ヴォーリズ設計事務所が 設計した。財団創設者のウィリアム・ ダンフォースの言葉、"Aspire Nobly, Adventure Daringly, Serve Humbly." が記されている。その目的は、学生が いつでも瞑想できるためのもので、実 際、ふと立ち寄って落ち着いた時間を 過ごしていた同期生もいた。

16期の思いがまとまって力に

募金活動が始まると、16期生からは当初の目標額100万円を優に超える寄付金が入学50周年記念式までに寄せられた。アドヴァンスメント・オフィスでは、募金活動を同窓会全体に拡大して呼びかけたところ、好意的な反響をいただき、結果的に2019年5月末の時点で、16期生から300万9017円、それ以外の方々から452万1795円、合計753万0812円の募金額に達している。大学も相当額をマッチング

ファンドとして支出し、2019年初めに改装工事が施行された。その結果、内装、空調、外壁などがすっかり作り直され、快適な室内環境が取り戻された。4月から、活発に様々な学生中心の活動がなされ、6月4日には大学礼拝がシーベリー記念礼拝として持たれ、ミラーさんが説教を担当した。今後は以前のように、結婚式も持たれるようになると思われる。

今回、思いもかけず多くの方々からのご支援を受け、一言の提案からこれだけの反響をいただきシーベリーチャペルが復活したことは、あのチャペルを知る者にとって大きな喜びであった。シーベリーチャペル以外にも、D館や本館など、キャンパスに自分の今と密接に関わった場が今も息づいている。その保全や復活に手助けができ、それがこれからの学生諸君のキャンパスライフの充実に役に立つことを思えば、こちらの想定を超えた営みとなることが示された気がする。

註*

1968年、学生が結成した「全学共闘会議」による、ガードマン体制の即時撤廃、教授会議事録の全面公開、能研闘争で除籍や停学に処せられた学生計75名の処分撤回の3つを大学側に要求する運動。能研闘争は1967年に起きた能力開発研究所の適性検査(能研テスト)を入試の一部に採用することに対する反対運動のこと。

募金活動・成功のポイント

「まず何を対象に募金活動を行うか。シーベリーチャペルは結婚式や葬儀を行ったことのある同窓生も多く支援が得られやすかったと思います。そういう意味でいえば、旧D館はクラブの部室として使っていた人たちが多く、クラブ中心で募金活動をしたら多くの寄付が集まるのではないでしょうか。情報の広げ方は、16期の場合、

同窓会の名簿を活用して同期会の 案内メールを出していました。同 期会を始めて3年、入学50周年記 念祝賀会を迎えるにあたり募金活 動をしようとメールで呼びかけま した。他の同窓生にも広げるには、 ICUアドヴァンスメント・オフィ スに相談するといいと思います」 (大西直樹名誉教授・談)

改修を終えたシーベリーチャペルで… 第5回16期同期会報告

さる2019年5月18日(土)の午後、 ICUキャンパスのしたたるような緑の 中、第5回目の16期同期会が開かれま した。参加者は29名。まずはシーベ リーチャペルに集合。空調装置の刷新、 内装の補修、外壁の清掃などの改修が 施されたチャペルは1年前とは面目を 一新、かつての快適な空間を取り戻し たようで、我々16期による募金が発 端となって全学に広がったチャペル補 修・再生のための募金の成果を間近に 感じとることができました。

そこで山本智巳学長補佐から、その 後の募金状況や改修工事の報告などが なされ、16期への感謝も表明されま した。それに続いてリア・ミラーさん にチャペルの歴史と意義について簡単 な話をしていただきました。彼女が 書いた "A Mysterious Chapel in the Wood"と題されたレポートは、チャ

ペル設立の経緯とその後のキャンパス 内での存在意義について、埋もれてい た資料を博捜したうえでしっかりとし た見識に基づき的確にまとめられた優 れた論考で、募金活動を始めるにあた って貴重な情報と理念的なバックボー ンをもたらしてくれました。

この募金活動を通し、16期にとっ て新たな意義を持ち始めたチャペルで すが、その前で記念撮影をした後、ダ イアログハウス7階のファカルティラ ウンジに場所を移して懇親会となりま した。武蔵野の緑をはるかに見晴るか すラウンジでは、その開放的な雰囲気 にも促されてか、そこここで様々な話 が弾みました。メンバーの多くが古 希を迎える歳になってしまいました が、まだまだいろいろなことにチャ レンジしている人も多く、シーベリ ーチャペル設立の際の標語のひとつ

"Adventure Daringly" の精神が息づ いているように感じられました。そこ にICUのリベラルアーツ教育の成果を 見てとろうとするのは手前味噌に過ぎ るかもしれませんが、いつものことな がらほどよい刺激を受けた気持ちの良 い集いになりました。その後、新装と 成った体育館を見学して解散しました。

2018年は入学50周年記念というこ とでいつもに倍する参加者がいたのに 比べると少々さびしい人数ではありま したが、来年以降も多くの方々が顔を 合わせる場になりますことを幹事一同 願っております。

なお、シーベリーチャペル募金活動 はその後も継続され、16期生からの 募金総額は5月末時点で300万円を超 え (300万9017円)、その他のご寄付 者からの募金を加えた寄付総額は750 万円近くに達している、という報告が アドヴァンスメント・オフィスから届 いています。大学もマッチングファ ンドとして同額の資金を投入し、空 調、内装、トイレ、外壁などの整備が 実現しました。気持ちの良い室内環境



が取り戻されて、すでに学生を中心に 様々な集会が持たれています。とはい え、まだ手を入れるべき箇所がいくつ かあり、今後も募金活動を継続しつつ さらなる改善を図っていく方針ですの で、引き続いてのご支援をいただけま すとありがたく存じます。

今後は再生なったチャペルをいかに 活性化させていくかという課題にも取 り組む必要があろうかと考えています が、その一環として16期では秋にヴ ァイオリニストを招きチェロとの二重 奏によるコンサートを計画していると ころです。卒業生の皆様もいろいろな 分野で活躍なさっていることと思いま すし、その経験や人脈を生かしたシー ベリー活性化のための企画がありまし たら、大学宗務部に相談してみてくだ さい。

16期同期会幹事:浅野俊(康駿)、磯崎(小方) 真知 子、大西直樹、菊池正己、草刈清人、中内俊一郎、 新田(根本) 美奈子、古谷利夫





第5回16期同期会の様子



ICU 教会の教会挙式のご予約は ICU サービスにて承っております。

ホームページや Twitter Facebook ページもご参考に お電話にてお問い合わせください





国際基督教大学 本部棟 2階 Mon-Fri 9:00-12:00, 13:00-17:00 1

TEL: 0422.33.3530 MAIL: info@icu-service.com

(株) ICU サービスは国際基督教大学 100% 出資による事業子会社です。

○保険代理店事業 ○子供向け生涯学習講座 (ICU ジュニア キャンパス・キャンプ、ICU キッズ・カレッジ) ○不動産斡旋 ○イベントサポート

同窓生に知ってほしい

「私たちは多くの人の善意に助けられ卒業した」

ICUの授業料は高い。その授業料を払って卒業したのに、なぜ寄付が必要なのだろうか。 そう思っている同窓生も多いのではないだろうか。寄付が必要な理由、同窓会の募金活動、今後の課題について、 ICU財務担当常務理事の新井亮一氏、同窓会大学・募金部担当副会長の長谷川攝氏、 同じく大学・募金部に所属し、ICU学長特別補佐も務める中嶋隆氏にお話を聞いた。

構成・写真: 安楽由紀子(本誌)

献学以来、赤字が続いている

一大学はなにかと「寄付、寄付」と言っているような印象を受けるのですが、なぜ寄付が必要なのかを知るために、今のICUの財務状況について教えてください。

新井亮一(以下、新井) 詳細はICU の公式ウェブサイトに掲載されている「特徴あるICUの財政について」という文書を参照いただきたいのですが、学生ひとりあたりの経常的収入と支出を見ると、支出は私立大学(医歯系除く)の平均139万円に対して、ICUは 243万円と1.7倍を超えています。収入を見ると、授業料・手数料収入は私立大学の平均124万円に対して143万円と比較的高くなっていますが、少人数教育のため人件費等がかかり、献学以来ずっと赤字となっています。

──献学以来ですか? それでどうや

って経営が成り立っているのですか。 新井 赤字を埋めているのは、455億 円ある基金の運用利益です。もともと は献学のときに当時の日銀総裁である 一万田尚登を中心とする募金活動によ り集めた1億6000万円で、46万4000 坪(東京ドーム22個分)の土地を購入。 食糧難の当初は、自給のために農場を つくりましたが、後にゴルフ場に転用 して年間5000万円の収益を出しまし た。1970年代に東京都に東京ドーム 9個分を売却し、野川公園ができまし た。このとき約330億円の収益を得て、 それが現在の基金の元になりICU生の 教育を支えています。東京都に土地を 売却する前の赤字はアメリカから寄付 金が入っていたようです。

――この赤字を補うためにも寄付が必

要だということですね。

長谷川攝(以下、長谷川) そうなん です。同窓会でも寄付を呼びかける活 動を行っています。この10年ほどを 振り返って大きく成功した募金活動 は、2011年から3年間実施された「フ ィールド人工芝化募金」、2014年から 2016年に行われた「ICU桜募金」、16 期が中心となって始めて広がった「シ ーベリーチャペル募金」(2~3ページ 参照)。そのほかにも大学と協同しな がら随時同窓生に寄付を呼びかけてい ます。同窓会としては、「ICU Peace Bell奨学金」に同窓会費から毎年400 万円を寄付しています。経済的支援を 必要とする優秀な学生に入学の機会を 提供できる大事な活動なので、同窓会 としても大学としても力を入れて続け ている募金活動です。今後は、キャン パスの教育研究施設や旧D館の補修・ 整備も進んでいくとのことですので支 援・寄付をお願いしたい対象が増えて いくかもしれません。同窓生とどのよ うにコミュニケーションをとり、どの ようなフローをつくれば一人でも多く の方に参加してもらえるかが課題。

新井 寄付する同窓生は一定数いるんです。学生ひとりあたりの寄付金のデータを見ると、他の文系、教養学部系の大学に比べてICUは寄付金が比較的多い。というのも、献学直後の卒業生は、日本中で募金活動を行って献学した話を先生たちが授業でしているので、多くの人の善意にお世話になっているという実感を持っています。実際、その世代が定年退職を迎えた90年代後半は寄付金が大きく増えました。ところが、そうした"寄付によって授業を受けている"という認識は次第に薄れ、



同窓会大学・募金部担当副会長の長谷川攝氏。

今はICUが赤字ということも赤字を埋めている原資がなにかということも知らない同窓生が増えました。

――私も知りませんでした。授業料が 高いのでまさか赤字とは思いませんで した。

新井 卒業するまでにひとり当たり、昔は約300万円、今は約200万円ほど基金からの援助を受けています。年間授業料は今は140万円以上、4年間で600万円を超えるけれどもそれだけでは足りない。これだけの設備と教員、職員がいるなかで勉強できているのは、かなり恵まれているのです。

小学生や他大の学生も寄付

中嶋隆(以下、中嶋) 「恵まれた環境で勉強していた」ということは、50、60代になってからようやく気づく人が多いかもしれないですね。それより若いころは「学費を払っているのだから当たり前だ」と思っているかもしれない。

新井 僕自身、以前は寄付する気はあ りませんでした。やはり寄付金によ ってICUの教育が維持できているは思 っていなかったんです。20年ほど前、 30代後半になって、あるシングル期 (卒業期が一桁) の先輩と食事する機 会があり、そこで「君は寄付者のお金 を削り取って卒業したんだぞ、どこか で恩を返せ」と言われたことがきっか けで寄付するようになりました。その 時、「寄付いただいた方々のお世話に なっている」と在学中に知らせなかっ た大学にも疑問を感じましたね。寄付 した人のために、学生にこのことは知 らせるべきだと思う。知った上で寄付 するかしないかはそれぞれの考えでは

ありますが。

長谷川 献学時、募金活動を行ってくれた建設後援会のリストが残っているのですが、全国津々浦々がんばってお金を集めてくださったことがわかる。

新井 建設後援会の会長が日銀総裁の 一万田尚登、相談役に芦田均首相、片 山哲前首相ら、そのほか、東西の経済 連合会会長、参議院議長、衆議院議長、 大蔵省銀行局、全国諸大学の学長など が参加し、大々的に募金活動を行った。 そのようにしてつくられた大学は、こ の規模ではICUくらいしかないかもし れない。

中嶋 多くの大学は著名なファウンダ ーがいてその人の理念が中心になって 大学が作られています。ICUは、「二 度と戦争は起こしたくない、そのため に何が必要か」という問いのひとつの 回答として、「新しい大学をつくろう、 新しい教育を行おう」という理念があ り、多くの人がこれに賛同した。国民 の総意といっても過言ではありません。 だからこそ貧しく苦しい時代に多くの 寄付金が集まったのだと思う。それぞ れが自分の生活のなかから出せる範囲 のお金を出して、思いを託してつくら れた大学なんです。図書館の歴史資料 室に寄付者の名前を記したカードが収 められているキャビネットがあります。 それを見ると、当時、どれだけたくさ んの人が思いを託したかがよくわかり ます。すごいですよ。

新井 そうですね。早稲田大学の学生も「素晴らしい大学ができると聞いて今日のバイト代を全部寄付します」と寄付していますし、小学生が「今日のおやつ代を我慢しました」と寄付しています。昭和天皇皇后両陛下も今の金



大学・募金部およびICU学長特別補佐の中嶋隆氏。

額にして2000万円相当を寄付しました。

中嶋 その人たちから受け継いだ思い を次に伝えることが我々の使命なので はないかと思う。

新井 そうですね。寄付を促すには2 段階あるように思います。まずは、今 お話したようなICUの献学経緯をすべ ての世代に正しく伝えること。その上 で「自分も寄付したい」と思う人が行 動を起こしやすいプロセスになってい るかどうか考えることですね。

寄付したくない理由は……

長谷川 募金活動をより活発にするには同窓生がICUに対してどのような考えを持っているのか知る必要があるのではないかと、同窓会の大学・募金部の若手3人ができる範囲でSNSを活用したアンケートやインタビューを重ねで報告書にまとめてくれました。同窓会は大学と共同でさらに範囲を広げた意識調査を準備中です。その結果をふまえて効果的に発信していきたいと考えています。

中嶋 「寄付したいけれどもどうしたらいいのだろうか、方法がわからない」という話もよく聞きます。また、「どういうふうに寄付金が使われるのだろうか」「希望の目的に寄付金を使ってほしいがどうしたらいいか」という話もある。そこをうまくコーディネートできれば。

長谷川 「赤字であると知らなかっ た」「困っていると知っていたら寄付 したのに」という意見もよく聞きます。 同窓生の思いと大学をうまく結びつけ ることができるといいですね。例えば ひとり1000円ずつ集めたとしても卒 業生は2万5000人もいるのでかなり のお金になります。無理のない範囲で、 少しずつ裾野を広げていきたいですね。 中嶋 大学に対する思いはみんなそれ ぞれあると思う。そこから一歩踏み出 せるしくみができるといい。必ずしも お金にこだわらなくてもいいと思いま す。自分の能力、経験をICUに少しで も生かすということでもいい。学生が 困っていることをサポートするような ボランティア活動に参加する、それも ひとつの大学への貢献です。同窓会で もさまざまな活動を行っています。在 学生と将来について話し合うキャリア 相談会などに参加してくれれば、それ



ICU図書館内にある歴史資料室には、寄付者芳名帳 (右) や寄付者芳名カードボックスが常設展示されている。多くの人の善意によって献学されたことがよくわかる。https://www-lib.icu.ac.jp/Archive/



ICU財務担当常務理事、募金委員会委員長の新井亮一氏。

はそれで思いが後輩たちへつながっていく。そういう場なりルートなりがさらに広がっていくといいですね。

――桜募金や木製タブレット椅子プレゼントキャンペーンなど、思い入れが強いものに対しては口コミが広がりやすいしお金を出しやすいかもしれないですね。

長谷川 そうですね。思い出に対してなら寄付したいという人もいるでしょうね。

中嶋 貢献したいという思いは人それぞれ。いろいろなその受け皿は必要だと思う。たとえば運動部系サークルでグラウンドに愛着がある人はそこに関連した寄付を行いたいでしょうし、文化部系サークルでD館に出入りしていた人はD館に関する寄付を行いたいでしょう。それぞれICUにシンパシーを感じるところに貢献していけばいい。僕は「卒業生の数だけICUがある」とよく言うんですよ。同じものを押し付けるのではなく、それぞれが持っているICU観に合った活動がある。それを伝えることが大事。

長谷川 いろいろな形の貢献があって、 そのひとつとして寄付がある。

中嶋 みんなの心のなかにある「ICU スイッチ」という、押すと貢献したくなるというボタンをどう押すかですね。
——私自身は正直なところ就職に苦労したので、大学のせいではないとはいえ学生時代にいい思い出があまりなく、高い学費を払った割に生涯所得が少ないという意識もあるため、この先、50代、60代になったからといってICUスイッチが入るかどうか……。

中嶋 世代ですかね。学校と個人の関



係が我々の時代と違うんだろうな。

新井 確かに「ICUを応援したくない スイッチ」もあると思いますよ。学 園紛争があった時代に在学していた 人は、授業がなかったり卒業式がな かったりして、学生同士の対立もあ り、「大学に遊びにくるのもいやだ」 という人もいます。世代や性別によっ て感じ方はそれぞれ違う。僕も「応援 したくない」気持ちはわからないでも ない。ICUでは楽しい学生生活を送っ たのですが、社会に出たら周りにICU 卒がいない。同期は東大卒、慶應卒が たくさんいて、同窓会つながりで「役 員と飲んだ」などといった話をしてい る。そこでマイノリティの悲哀を味わ いました。さらに、ICUで奨励されて いた「積極的に発言する」を日本的な 組織で実行すると「空気が読めない」 と言われてしまうということも知った。 そこで、「ICUを応援したくないスイ ッチ」が押されてしまいました。僕の 同期にも「大学からはなんの恩恵もな かった」という人がいます。働き盛り のときは、社会的に成功したとしても 「大学の世話にはなってない、自分の 力でここまで来た」と思い、「大学の 教育によって今の自分がある」とは思 わないかもしれない。むしろ「ICUを 出たことで人生が不利になった」くら いに思っているかもしれない。しかし、 よく考えると、"ひとりで努力する" ということ自体ができるようになった のはICUの教育のおかげでもあるんで すよね。そういうことに気づくのは人 生ぐるっと回ってからかもしれない。 そのギャップを埋めることは難しい。 長谷川 私の世代は、女性は社会に出 るともともとマイノリティだったので、 マイノリティとして強く仕事をしてい こうと思っていましたね。だからがん ばっている女性を紹介するニュースな どでICU卒であることを知ると、私も がんばろうと誇らしい気持ちになりま した。

中嶋 同窓生の意識はそれぞれですね。 長谷川 本当にそうですね。その心の スイッチにどう働きかけ寄付につなげ るか。それが今後の大学・募金部の課 題ですね。

■ 大学・募金部とは?

ICU同窓会において募金活動を支援するための部。かつては大学と共催イベントなどを企画運営する大学部と分かれていたが、募金活動にあたって大学との連携が必要になるため、2018年4月に統合されて「大学・募金部」となった。

■ フィールド人工芝化募金

2011年から約3年間実施されたグラウンドの人工芝化のための募金活動。企画から費用の分担まで同窓生を中心とした賛同者と大学とが半分ずつ責任を担いながら協力し、合計856件、総計3719万5791円の寄付を集めた。2013年春、新しいグラウンドが完成。今後は人工芝のメンテナンスが必要となり、引き続き募金活動が期待されている。

■ ICU桜募金

マクリーン通り(通称・滑走路)の 桜並木が献学60周年を迎え枝の落 下や倒木が発生したため、伐採、植 樹などが必要になった。そこで、 2014年4月から2016年3月に募金活 動が行われ、2038件、目標額4000 万円を超える寄付金が集まった。 ICU桜募金の支援をもとに、「桜並 木再生プロジェクト」として2015 年から30年をかけて計画的な桜並 木の再生・保全が実施されている。

■ ICU Peace Bell奨学金

同窓生がイニシアチブをとり2008 年度から始まったICU独自の奨学 金。毎年約15人、入学前の審査で 選出され、4年間毎年100万円ずつ 給付。寄付者は1300人を越えてい るがその多くは1期から10期まで。 少額から寄付が可能で個人や同期会 からの冠寄付もできる。2018年は 22期(ID 78)がリユニオン開催の 記念募金で「22期PBS奨学金」冠 寄付を行った。今後は世代を超えて この奨学金を引き継いでいくトーチ リレー体制を整えるのが課題となっ ている。「Peace Bell」とは、大学 創立に尽力した一万田尚登氏を記念 し、1999年、創立50周年に本学礼 拝堂に寄贈された「平和の鐘」に由 来する。一万田氏は献学時に「奇麗 なチャーチができるだろうから、そ の屋上に日本の鐘、お寺にあるよう な鐘のできるだけよいのを置いてく れないか」と語っていた。鐘には *ILET THEM SEEK PEACE AND* PURSUE IT(平和を求めて、これ を追え ペテロ第一の手紙第三章第 11節)」と刻まれている。

■ 木製タブレット椅子プレゼン トキャンペーン

2017年10月に行われた同窓会 Peace Bell Scholar支部発足記念企 画。建て替え予定の倉庫に保管され ていたタブレット椅子80脚をICU Peace Bell奨学金寄付者にプレゼン ト。最低寄付額は2万円。10月1日 に申し込みを開始し、翌日2日の昼 ごろには80脚のタブレット椅子す べての引き取り手が決まった。

小特集OYR、留学生が語るICU

ICUでは、24カ国・地域74校の大学(2019年4月現在)と交換留学協定を結んでいるほか、多数の留学生を受け入れており、2019年5月1日現在、 在留資格「留学」を保持する学生は220人、うち「OYR(1年本科生)」と呼ばれる1年制の交換留学生は136人にのぼる。 彼らもICUで過ごした「同窓生」。彼らの思いを紹介する。

1957年から1959年までICUに留学 ロックフェラー4世氏に名誉人文学博士号を贈呈

文: 滝沢貴大(本誌) 翻訳: Sean Noble 写真: JICUF提供

ハーバード大在学中にICUに留学 し、帰国後は故郷・アメリカでウエス トバージニア州知事や上院議員を務め たジョン・デイヴィソン・ロックフェ ラー 4世氏に2019年3月、ICUが名誉 人文学博士号を贈った。贈呈を受けて、 ロックフェラー氏は「ICUでの経験は、 物事を国際的な視点から捉え、米国が 広い世界の一員であることを気づかせ てくれました」とコメント、ICUでの 3年間を振り返った。

学位贈呈式は3月15日、ワシントン DCの旧日本大使公邸で開かれ、日比 谷潤子学長がロックフェラー氏に学位 証明書とフードを手渡した。式には杉 山晋輔米国駐箚特命全権大使も参加し

ロックフェラー氏によると、ハーバ ード大学在学中、同大で東洋史を教え るエドウィン・ライシャワー博士から 日本とICUを勧められたのが留学のき っかけという。「ICUは評判の高い素 晴らしい大学で、真剣に学問に取り組 むことを教えてくれました。キャンパ スにすっかり馴染み、ICUの厳しい教 育に敬意を抱くようになりました」と ロックフェラー氏は話す。

在学中は漢字の勉強に一生懸命取り 組んだ。情熱を持って教育に取り込む 日本人の姿勢や、多様性を奨励する ICUの教育は、卒業後のキャリアにも 影響を与えたという。「(ICUへの留学 は)私にとっては初めての海外経験で したが、そのおかげで視野が広がり、 公職に就くことを考えるきっかけとも なりました。深く感謝しています」

John Davison Rockefeller IV, was awarded an honorary Doctorate of Literature degree by ICU, where he studied while he was enrolled at Harvard University. Upon conclusion of his scholarship at ICU, he served as governor and senator of his home state of West Virginia. Upon receiving the award, Rockefeller reflected on his three years at ICU, stating"My experience at ICU taught me to see things from an international viewpoint, and helped me to perceive the United States as one player on the global stage."

The conferment of the degree took place on March 15th at the Old Ambassador's Residence. ICU President Junko Hibiya presented him with the diploma and hood. Shinsuke Sugiyama, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary to the United States, was also at hand for the event.

Rockefeller recalled that during his studies at Harvard University, while contemplating a study abroad program, Edwin Reischauer, Professor of Asian History, recommended studying in Japan at ICU. "Professor Reischauer explained that ICU had an excellent reputation, and that I would receive a top-notch education by studying there. I became intimately familiar with the campus and learned to hold ICU's strict approach to education in the highest of regards,"he said.

During his scholarship at ICU, Rockefeller took his study of kanji seriously. He says that the diligent manner in which Japanese students were pursuing their education, coupled with ICU's promotion of diversity in education, had a profound effect on his career after graduation. "Studying at ICU was my first experience abroad, and thanks to that experience, my perspective was broadened and it was the catalyst for my pursuit of public office. I remain deeply grateful," he concluded.



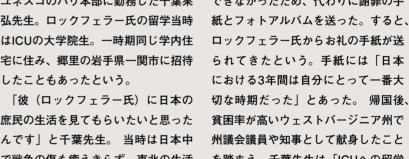
左から日比谷潤子学長、ジョン・デイヴィソン・ロックフェラー4世氏、杉山晋輔駐米大使

留学中のロックフェラー氏と交友 千葉杲弘先生 (ICU元教授)

日本人として当時最年少の27歳で ユネスコのパリ本部に勤務した千葉杲 弘先生。ロックフェラー氏の留学当時 はICUの大学院生。一時期同じ学内住 宅に住み、郷里の岩手県一関市に招待

「彼(ロックフェラー氏)に日本の 庶民の生活を見てもらいたいと思った んです」と千葉先生。 当時は日本中 で戦争の傷も癒えきらず、東北の生活 はとくに貧しいかった。岩手では実家 に泊まってもらい、食事もふるまった という。「ずうずうしくも、よく大財 閥の御曹司を実家に泊めたものです。 今まで全く見たことはない生活だった のでは」と千葉先生は振り返る。

千葉先生は学位贈呈式に所用で参加 できなかったため、代わりに謝罪の手 紙とフォトアルバムを送った。すると、 ロックフェラー氏からお礼の手紙が送 られてきたという。手紙には「日本 における3年間は自分にとって一番大 貧困率が高いウェストバージニア州で 州議会議員や知事として献身したこと を踏まえ、千葉先生は「ICUへの留学 は、将来を考える時間になったのでは ないかと思う」と話した。



私たちがコーディネーションします!

We are here to save you time and money!



通訳

制作

品質にこだわるEXIM

最近、ICU同窓生の皆さまからのお問い合わせやご依頼が増えています。 ありがとうございます。

「とても助かった」、「クオリティに満足した」といった皆さまの声に感謝 しつつ、引き続き、どなたにもご安心いただける品質重視のサービスの 提供に取り組んでいきます。

お困りのこと、なんでもご相談ください。

- ●得意分野:法律、IR、環境・エネルギー、ITほか
- ●見積り/サンプル翻訳(無料)即対応

▼ICU同窓生10%割引

(株)エクシム・インターナショナル EXIM INTERNATIONAL, INC. 永島 克彦(14期) 比奈地 康晴(14期)

203-3431-2118 URL: http://www.exim-int.com/

〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 ゼネラルビル3F TEL 03-3431-2118 FAX 03-3431-2120 E-mail: tokyo@exim-int.com

コーディネーターの私たちも歳を取りましたが、

会社の創立から31年。

コーティホープール 元気に頑張っています。

〒232-0063 横浜市南区中里2-14-5

TEL 045-721-4800 FAX 045-721-5165 E-mail: yokohama@exim-int.com

日本外国特派員協会会員/東京商工会議所会員

留学生が語る"同窓生"視点でのICUとは?

ICU同窓会とのつながりは?

先日の同窓会理事会で「OYRを中 心とする留学生とICU同窓会との繋が り」について議論が上がった。ここで 改めてICU同窓会について説明すると 同窓会の活動は基本的には入学時に会 費5万円を納入した在学生・同窓生向 けに、年2回の会報誌の送付(未納者 は1回)、ラウンジやWELBOXの利用 等のサービスを行っている。一方で OYRに関しては、母校に戻った後の動 向は追いきれておらず、現在どこで何 をしているのか、本人がICUに連絡を 取らない限り把握できないのが現状だ。

しかし前述のジョン・デイヴィソ ン・ロックフェラー4世氏のように、 本国に帰国後、日本と母国の架け橋と なり双方の発展に寄与している留学生 は大勢存在する。直近のデータによ

ると過去8年間で約1000人のOYRが ICUで共に机を並べてきた。今回改め てOYRの方々へコンタクトを試みた が、Facebookなどのプライベートな 繋がりが主で、個々人の状況を把握す るのは困難だったのが実情である。

留学経験のある方はお分かりかもし れないが、留学先の大学に対しては思 い入れがあり「また繋がりたい、何ら かの形で寄与したい」という思いを持 つ方も多いかと思う。

今回、筆者の知り合いを通じて、現 在日本で働いているOYRの2人にイン タビューすることができた。ICUの留 学提携先も、年々拡大しICU生のネッ トワークが世界中に広まっている中で、 OYRにとってもICUが大切なコミュニ ティの一つとなるよう、今後どのよう な働きかけを行っていくか同窓会とし ても議論を重ねて行く予定だ。

OYRが語るICU①

留学が終わる頃には日本で働きたいと思うように



フランスで大学院に入る前に大学側 から交換留学をする機会をいただき当 初は神戸大に行く予定でしたが直前に ICUに変わりました。今となっては大 変良かったと思います。ICUではどの 生徒も日本語を覚えるのに一生懸命で 大変良い環境でした。また授業で書い た意見文が朝日新聞の「声」に掲載さ れた時もすごく嬉しかったのを覚えて います。

留学生活では、何より初日から親切 に迎えてくれた寮の皆さんを覚えてい ます。一緒に買い物に行ったり、必要 な手続きを教えて頂きました。一年を 通して日本語や日本の文化について 色々教えて頂き、大学の授業と同じぐ らいか、それ以上に寮生活が日本や日 本語を勉強して行く上で大切でした。

日本語を勉強してから留学しました が、当初はそこまで話せる自信があり ませんでした。ところが毎日の会話で 自信が付き、日本語で話すのがとても

楽しくなりました。全くその予定では なかったのですが、OYRの1年が終わ ったのち、日本語を使える仕事に就き たい、日本に住みたいと思い始めまし た。

フランスに戻り、その思いを大学の 先生に伝えると、日本での仕事を紹介 していただきました。あまりにもしつ こかったのでご紹介頂いたところもあ ると思いますが、運も大事だと今にな って思います。また留学中に、その後、 妻となってくれた人に出会ったことも もう一つの大きなモチベーションでし た。

OYRを終えて12年が経ち皆と会う 機会は減りましたが、時々帰国した OYRが日本を訪れた際に当時の寮生 達とご飯に行くこともあります。日本

現在のご職業:SFA Japan株式会社 シニア・アカウント・マネージャー で仕事に就いたOYRは少ないかもし れませんが大学側等がアレンジする

OUMAILIA Hacen (ウマリア・ハセン) 氏

留学期間: 2006~2007年

出身大学:パリ第七大学院/東亜文化・言語学部 日本文化・言語学科

白いと思います。 今は5歳の娘がいて、まだずいぶん

OYRとAlumniの交流の場があれば面

先ですが、将来はどんな大学に行くの か、ICUに行けたらいいなと思うこと もあります。



在学中のウマリア氏(左端)

Peter Rothenberg (ピーター・ローゼンバーグ) 氏

現在のご職業:Best Beer Japan CEO

OYRが語るICU②

「人を大事にする | 文化に感動して日本に戻ることを決意



高校生の時に日本人の子がホームス テイに来たのをきっかけに日本に興味 を持ち、大学入学後は日本語を学び たいとUCLAの交換留学制度を使って ICUに来ました。留学当初は寮が定員 オーバーで学生会館に住むことになっ たのですがその後運良く第二男子寮に 入れることになり、入寮してからの留 学生活は最高のものとなりました。キ ャンパス内に住んでこその留学生活だ と思うので本当に良かったです。

寮では、掃除などの役割分担のよう に寮ならではの習慣を学べたのも良い 経験でした。何よりお風呂はとても楽 しかったです。掃除が終わると「お風 呂が入りました!」と呼びかけて皆で 入る。最初は恥ずかしかったのですが 色々な話ができ、授業では習わない日 本語や文化もお風呂で学べました(笑)。

サッカー部、ブラスバンド部、自転 車部と興味のある部活には全て入り大 切な仲間ができました。一番感動し

たのはOYRを終えてアメリカに帰る 時、寮の仲間だけでなく、それぞれ の部活の仲間が僕のお別れ会を開い てくれたり、メッセージ付きのTシャ ツなどをプレゼントしてくれたことで す。「人を大事にする」日本の文化に 感動し、卒業後は日本に戻ろうと漠然 と思い始めました。UCLAを卒業する 際に「JETプログラム」(語学指導等 を行う外国青年招致事業 The Japan Exchange and Teaching Program) に応募し、群馬県嬬恋の小学校で外国 語指導助手として働くことから日本で のキャリアが始まりました。

今でもブラスバンド部のコンサート やサッカー部のOB戦、寮の餅つき大 会に参加しています。OYRの同期と も連絡を取っていて刺激し合える良い 仲間です。

留学期間:2007年~2008年

出身大学: UCLA

日本での生活は9年目に入り 「Eigooo!」という英会話チャットアプ リの開発などを経て現在はビールの会 社を起業しています。今後はスイスや ドイツに住んでみたいとも思っていま すが、10年後もやっぱり日本にいる かもしれないですね。



入寮式のでローゼンバーグ氏(左端)

Special Interview

献学の精神を忘れずに、国際化を推進

同窓生初の大学法人理事長が誕生した。2019年6月1日付けで竹内弘高氏(13)が理事長に就任したのだ。今まで、Harvard Business School、一橋大学で教鞭を執られてきた竹内氏。どのような人物なのか、そして、大学経営者としてICUとどのようにかかわっていくのか、話を聞いた。

聞き手:望月厚志(本誌)、中島遥(65 ID21) 写真:中島正之 翻訳:鈴木律(本誌)

すべては東京オリンピック から始まった

――高校生時代、どのようにしてICU に興味を持たれたのですか。

竹内弘高理事長(以下、竹内) 私は 横浜のインターナショナルスクールに 通っていたのですが、17歳から18歳 にかけてちょうど1964年、前の東京 オリンピックがあったんです。私は通 訳のボランティアに応募して採用され ました。通訳のボランティアは基本 的には大学生で、それも大学ごと 種目が割り当てられていました。私 は、「馬術」の通訳を任されたのです が、私ともう一人以外は、すべてICU 生。馬術はKing of Sportsですから、 その格式高い種目の通訳にICUがアサインされていたわけですね。

こうして、通訳の研修期間からオリ ンピック本番までICU生とのおつきあ いが始まりました。みなさんとても インテリジェントで、研修の合間に、 「ニーチェがこう言っている」とか 「カントはこう考えているんだ」とか 始まるのです。それが、すごく格好良 くてICUという大学にあこがれました。 「ああいうお兄さん、お姉さんになり たい」と思ったわけです。大学受験の 時、両親はインターナショナルスクー ルから米国の大学へ進学して欲しいと 考えていたのですが、私はICUしか受 験しませんでした。そして、1965年 9月に、いわゆるセプテンバーとして ICU生となったのです。

──ICUではどのような学生だったのでしょう。

竹内 とにかくいろんなスポーツをや りました。「本業」はサッカー部で有 馬利男さん(10期、元富士ゼロック ス社長)たちとボールを蹴っていまし た。スキーもやったし、恋人(同期の 木村信子さん、後の妻)がゴルフ部だ ったのでゴルフもやりました。さらに は、野球部も自分たちで創設しました。 他に、TIAF(東京大学、ICU、青 山学院大学、東京外国語大学の頭文字 をとったもの。4大学の英語サークル が競う英語劇コンテスト)にも参加し て同期の奈良橋陽子さんと共演しまし た。審査員の中にフルブライト委員会 の人がいて「演劇で留学したかったら 奨学金を出すよ」とオファーを受けま したがお断りしました。「自分の顔を 鏡で見なさい」と信子に言われたので (笑)。

ICU⇒UCB⇒HBS

――課外活動ばかりですか。

竹内 いえいえ、授業は少人数だから サボれない。それに、どの授業も面白 かったので、いろいろな課外活動をし ながらも授業は1回も休みませんでし た。

藤田忠先生の授業が一番印象に残っています。藤田先生は統計学者ですが、経営学も教えていました。私は当時からマーケティングリサーチなどの分野に興味があって、そのような分野を藤田先生に教わりました。その後、交換留学でカリフォルニア大学バークレー校(UCB)に行き、向こうではマーケティングに加えてデザインも学びました。

ICUを卒業するころ、米McKinsey & Companyが日本支社を立ち上げるというので応募したのですが、「MBAを持っていない」と言われ断られました。それならばとUCBでMBAを取り、再度応募しましたが、「若すぎる」と2度目のお断り。それで仕方なくUCBの博士課程に進みました。

博士号を取った後、Harvard Business School (HBS) 講師の職と、McKinsey 日本支社の職のオファーがあり、両者を天秤にかけて(笑)、結局HBSで教え始めたのです。

HBSでは生涯の盟友となるMichael Porter教授と出会いました。一橋大学を定年退職したときに、「またHBSで教えないか」と誘ってくれたのもPorter教授です。

――今回の理事長就任に当たっては、 すんなり事は進んだのでしょうか。

竹内 実は家族の大反対にあったんです。2010年にHBSに戻ってからはボストンを居に、時々日本に帰ってくるという生活でした。日本はふるさとでもありますし、いくつかの企業の社外取締役も務めています。それが、HBSの教授を続けながらICUの理事長も引き受けたら、頻繁に東京とボストンを往復しなければならない。妻や子供たちが、私の健康のことを心配してくれたことを感謝しています。そこで、妥協案として日本の社外取締役を2社、降ろさせていただくことにしました。

それに、日本の大学の学長がCOO (Chief Operating Officer) だとすれば、理事長はCEO (Chief Executive Officer)。日々の教育のことはCOO に任せて、大学について自分の専門の



たけうち ひろたか

1946年10月生まれ。1969年6月ICU社会科 学科卒業 (13期生)。1971年カリフォルニア 大学バークレー校(UCB)経営学修士 (MBA) 取得、1977年同大学経営学博士取得。 1976年からハーバード大学経営大学院(ハー バード・ビジネス・スクール)講師を務め、 1977年に助教授。1982年3月一橋大学商学 部助教授、1987年同教授、1998年同大学院 国際企業戦略研究科 研究科長(Founding Dean)。2010年、一橋大学名誉教授、ハー バード・ビジネス・スクール教授に就任。 2019年6月、ICU法人理事長に就任。『The Knowledge-Creating Company」(共著、 Oxford University Press。邦題:『知識創 造企業』東洋経済新報社)、『ベスト・プラク ティス革命』(ダイヤモンド社)、『トヨタの 知識創造経営」(共著、日本経済新聞出版 社)など著書多数。2020年の東京オリンピ ック・パラリンピックの一般ボランティアに 応募し、8万人の中の一人に選ばれた。

「経営戦略」を考えるのが理事長だから、HBSの教授と両立できるんじゃないか。そんなふうにアドバイスしてくださるICUの先輩もいて、お引き受けすることにしたのです。

ユニークな人材に商機あり

一一今や、「大学業界」では「国際」「教養」「リベラルアーツ」が流行語のようになって、これらを標榜する大学がますます増えています。そのような状況の中、ICUの独自性を戦略的にマーケティングするにはどうすればよいのでしょうか。

竹内 私はICUの強みは大きく3つあ ると考えています。まず第1は卒業 生・学生の個性。俗に変わり者、ユニ ークなどと呼ばれる、個性をしっかり 持った人が多いですよね。ある大手商 社にICU卒業の人事部長がいて、その 人は「宇宙人」と呼ばれていたそうで す。この校風は、1期生から70年を経 た今の在学生まで変わっていないので はないかと思います。例えば、東京大 学がテクノクラートを育てるためにあ って、一橋大学がビジネスのためにあ るのだとしたら、ICUはそのようなユ ニークな人材を様々な分野に広げて社 会に貢献している大学だと思います。 竹内 2番目は、キャンパスです。こ れは米国の大学にも引けをとらない高 品質なアセットです。先日、米国プ ロバスケットボールリーグNBAのス タープレーヤー、Stephen Curry選手 の高校生向けバスケットボール教室を ICUの新体育館で開催しました。実は、 私が理事長に着任しての最初の仕事は ここに出席することでした。Curry選 手は米国7都市で高校生向けの教室を 開催しているのですが、楽天の三木谷 浩史社長が東京でもやりたいとお願い

して、6月下旬にCurry選手に来ても

らうことになり、その会場として、昨年竣工したICUの新体育館が選ばれたのです。関係者一同、会場に満足してくれていました。このような新しい優れた施設もあり、自然にも大変恵まれている。これは誇れるアセットです。

献学の精神を世に問え

3番目に重要なのが、私が理事長を 引き受けた大きな動機のひとつにもな っているのですが、「明日の大学を作 る」という献学の精神です。理事長に 就任後、富岡徹郎さん(26期、ICU 常務理事)からいろいろ資料をもらっ て、改めてICUの創設の頃の歴史をお さらいしていますが、当時の米国人は 太っ腹だったなとつくづく思います。 彼らが毎日曜日に教会に通って献金し ていたお金が、日本に平和と民主主義 を根付かせるための大学に使われる。 この献学の精神は胸を張れる。昨日や 今日、「リベラルアーツ」と言い出し た大学にこのようなレガシーはありま せん。我々は平和を米国のクリスチャ ンから教わりバトンタッチされたわけ です。世界唯一の被爆国として、この トーチを他の国に渡す義務があるので はないかと思います。ものすごく崇高 な精神ですよ。このことを実行してく れる学生をますます生み出していかな ければいけないし、外に向かってアピ ールしなければと考えています。

二足のわらじでウサギたくさん

一ではこのICU、竹内さんはどのような経営戦略をもって理事長の任に当たられますか。

竹内 実は、「6月1日、ICUの理事 長に就任しました」というニュース が流れたら、それから2週間の間に Harvard関係などから提携の提案が3 件もあったのですよ。Yenching研究 所 のAndy Gordon教 授、Reischauer 日本研究所のChris Davis教授から、それぞれ、「ICUの理事長になるんだったら、ICUと一緒にこういうことできないか」と。そして、私はICU高校の責任も持っているのですが、米Phillips Exeter Academy (New

Hampshire州)という私立高校に相当するBoarding Schoolから、「夏に日本に行くのですが、ICUとこういうことできませんか」と。2週間で3件のオファーには驚きました。最初は、常に東京にいないことを心苦しく思ってもいたのですが、かえって米国にいた

方が、「彼と話すと日本の大学との協業は手っ取り早い」というようなことで、向こうから話が来るのではないかと今は考えています。そういう意味で、ICUとHBSの二足のわらじで、二兎を追いかけていたらウサギが何匹も得られるかもしれません。

それと、私は性格的に何か変化を起こさないといられない質なんです。結構、やることが過激です(笑)。いろいろなところで物議をかもすかもしれませんが、卒業生の皆さま、応援のほどよろしくお願いします。

Promote Internationalization without Forgetting the Founding Spirit

On June 1, Dr Hirotaka Takeuchi, class of 1969, was appointed to chair the University Board of Trustees, as the first ICU alumnus. He has taught at both Harvard Business School (HBS) and Hitotsubashi University and is still a HBS professor at HBS. Takeuchi talked to the Alumni News on his personal history and involvement with university management going forward.

It All Started with the Tokyo Olympics.

--- Why did you decide to go to ICU for college?

Takeuchi I was attending an international high school in Yokohama back in 1964, when the Olympics were held in Tokyo. I was 17 years old when I applied to become a volunteer interpreter. Back then, most of the volunteer interpreters were university students, with each university assigned to a specific event. ICU students were assigned to the equestrian event, which was considered the King of Sports. The only non-ICU students who were assigned to this prestigious event were myself and another woman who was herself an equestrian.

As a result, I spent a lot of time with ICU students from the training period through to the actual Olympics. I still remember how impressed I was with their intellectual level. Someone would start quoting Friedrich Nietzsche, another would elucidate about Immanuel Kant after dinner. These interactions opened my eyes to a new world and I became infatuated with ICU students. I thought to myself, "I want to be like them." Although my parents wanted me to go to college in the United States, which was why they sent me to an international school for 12 years, I only applyied to ICU. I entered the university as a so-called September student in 1965.

--- What sort of student were you at ICU? **Takeuchi** Although I enjoyed all sorts of sports, my "major" was the soccer football field, where I was kicking the ball around with Toshio Arima, former Fuji Xerox CEO (CLA 11, ID 67) and others. I went skiing and played golf, with my then girlfriend and later wife, Nobuko, as she was a member of the Golf Club. We also set up the Baseball Club. Moreover, I acted in dramas for the TIAF contest, where English-speaking societies of Tokyo University, ICU, Aoyama Gakuin University and Tokyo University of Foreign Studies competed with each. Thus, the acronym. I was fortunate to be on stage with another classmate, Yoko Narahashi, and to be offered a scholarship to study acting by a Fulbright judge. I turned it down as Nobuko, who heard about it, told me to look at myself in the mirror. (laughter)

ICU => UCB => HBS

--- Was it all extracurricular activities?

Takeuchi No, no, as the class sizes were so small, I could not play hookey! All the lectures were so engrossing, that I never missed a class even with my busy extracurricular schedule.

Professor Tadashi Fujita's seminars have left the deepest impression. Dr Fujita was a statistician, and also taught business administration. From back then, I was interested in marketing research and learned about the discipline from Dr Fujita. I took advantage of the exchange student program and studied marketing and design

at the University of California, Berkeley (UCB).

At the time of my graduation, McKinsey & Company of the US was setting up its Tokyo office. I applied but was rejected because I did not have an MBA (master in business administration), I was told. So, I went back to UCB to obtain an MBA and reapplied, but was rejected the second time. "You're too young." I was told. Thus, I went on to the doctorate program in business administration. Having earned a PhD, both the Harvard Business School (HBS) and McKinsey Japan offered me a position. Being a libra, I weighed the relative merit of the two (laughter) and decided to teach at HBS.

There, I met my life-long friend and cohort, Professor Michael Porter, who invited me back to HBS to teach there again when he heard about my retirement from Hitotsubashi.

--- How were you able to iron out differences with your family?

Takeuchi My family was opposed to the idea of my becoming a Board Chair. After returning to HBS, we settled down in Boston and I would fly once in a while to Japan to attend corporate board meetings as an extrenal director. But if I were to continue teaching at HBS and serve as Board Chair at ICU, they figured that I would have to fly a lot between Tokyo and Boston. My wife Nobuko and my children were quite anxious what that would do to my health, and I am deeply grateful for their concern. The compromise arrived at was for me to scale down my teaching and to step down from the external directorship of two companies.

I was advised by my alumni elders, who were propelling me to accept the ICU chair, if the university president is equivalent to being the chief operating officer (COO) then the Board Chair is like being the chief executive officer (CEO). Their argument ran as follows: You can delegate the daily operation to the COO and use your area of expertise, Management Strategy, to think about the university at large. That way, you can fill the two positions at HBS and ICU concurrently

Unique People, Our Contribution

--- Amongst university circles these days, everyone seems to be talking about "international", "liberal arts" and more institutions profess to champion these slogans. In such circumstances, how should ICU market its uniqueness?

Takeuchi As I see it, the strength of ICU is threefold, First, the unique personality of its graduates and students. We often hear that many are out of the ordinary and full of individuality. For example, an alumnus joined a large trading firm and managed the human resources department, but was nicknamed "a creature from another planet." I believe this culture has remained unchanged since year one to the current batch of students, 70 years later. To use an analogy, if Tokyo University's mission is to nurture technocrats, Hitotsubashi, business people, then ICU is to cradle unique people, who spread out to all corners of society and make contributions in their own way. Second, our campus as our asset. It is our "ba."

In fact, my first job as Chair was to attend a Stephen Curry basketball camp for Japanese high school students at ICU's new gymnasium at the end of June. The NBA star player had taken the "Underrated Tour" to seven cities in the US, and wrapped up the tour in Tokyo, invited by Rakuten president Hiroshi Mikitani. The venue chosen was the newly built ICU physical education center, with which the organizers, participants and all concerned were extremely pleased.

We are blessed with and should be thankful of these physical assets and the abundant nature of the campus.

The Founding Spirit, Our Noblesse Oblige

Third, the founding spirit of the school. An important element that motivated me to assume the Chair, is the foundation philosophy of the institution, namely, to create a "University of Tomorrow." Having received documents from the managing trustee for general affairs Tetsuro Tomioka (CLA 26) and read through the founding history of ICU, it brought home the generosity and magnanimity of the

Americans at that time. The dollars and pennies collected every Sunday from the churchgoers were used to build this university and to lay down the roots of peace and democracy in Japan. We should hold this founding spirit dear in our hearts.

Those universities that have just begun to appeal their "liberal arts" image, have no such legacy or lineage. We were imbued about social justice from American Christians and handed the baton of peace. As the only country to endure the atomic bomb, it is our duty to pass on the torch to other countries. This spirit is supremely noble. The university should nurture more students who can commit and carry on this torch and appeal this sprit to the outside world.

Two Hats, Many Hares

--- What sort of management strategy will you adopt at ICU as Board Chair?

Takeuchi When the news broke that "Takeuchi has become ICU Board Chair on June 1," I received three offers for partnerships in a fortnight. Professors Andrew Gordon of Harvard-Yenching Institute and Christina Davis of the Harvard Reischauer Institute of Japanese Studies inquired about collaborate undertakings. As I double as the Board Chair for the ICU High School, Phillips Exeter Academy, a private high school with boarding facilities in New Hampshire, sounded me out about cooperating on a summer project for its students this year.

I was pleasantly surprised at so many inquires in a short period of time, particularly because I kind of felt a sense of guilt about not being in Tokyo all the time. But it might be the other way round: people may judge it more convenient to sound me out in the United States about potential partnerships and future collaborations. In that sense, wearing the two hats of ICU and HBS, "he who runs after two hares" will catch many!

It is in my nature to bring about change; so when something has to be done, I may go to extremes (laughter). I might cause ripples all over the place, which is why I will need the support from each and every fellow alumnus of ICU.

北城恪太郎 前理事長からのメッセージ ICUの未来に期待すること

ICUの理事長を、9年間務めさせていただきました。この間、同窓会の皆様にご支援いただきましたことを、心から感謝しています。日比谷潤子学長をはじめとする教職員の皆さんの努力で、Times Higher Educationの日本の大学ランキングで、ICUが私学の中で最も高い評価を受けたことは嬉しいことです。また、施設整備

の面では、樅寮・楓寮と新体育施設が完成し、 財政面では、持続可能な仕組みの構築もできま した。これからは、竹内弘高理事長のもとで、 ICUの献学の理念は堅持しつつ、AIの活用など の社会の変化を先取りし、一層の国際化を推進 して、小さくともキラリと光る大学として発展 を続けることを期待しています。



写真:ICUパブリックリレーショ ンズ・オフィス提供

7 News

面白い本の出版、講演会、 現役生の学生の活動など、 ICUに関連するさまざまなニュースをお届け。

「自然環境保全プロジェクト」が始動

文:新村敏雄(本誌) 写真:プロジェクト事務局提供

次の60年に向けた維持を

ICU自然環境保全プロジェクトは、 この環境を「次の60年に向けて、桜 並木や里山緑地などに焦点を当てなが ら維持していく」ことを目的として 2018年12月の第1回検討委員会から スタートした。メンバーは、委員長が 富岡徹郎常務理事(26 ID82)、委員 に教養学部アーツ・サイエンス学科か ら藤沼良典准教授、上遠岳彦講師、卒 業生の樺島榮一郎青山学院大学教授 (37 ID93)。アドバイザーとして、横 張真東京大学大学院工学系研究科教授、 濱野周泰東京農業大学地域環境科学部 造園科学科教授(2019年3月より非 常勤講師)にご参加いただいている。

委員会を核として、さらに卒業生や 他の大学職員などが加わったワーキン グチームも設置された。筆者はワー キングチームに参加させていただき、 2019年1月と2月に大学で開催された 現地観察会に出席した。その内容を少 しご紹介する。

桜並木の衰退

1月は底冷えのする中、植樹から70 年近く経ったマクリーン通りの桜並木 をみて回った。桜募金に多額の寄付が 寄せられるなど、多くの卒業生にとっ

て大学の桜は思い入れのある存在だろ う。ところが、観察会ではさまざまな 問題点が指摘された。

一例がベッコウタケ。これがついて いる桜は葉こそ茂っているが、木の内 部では腐朽が進んでいて、倒木の危険 性が高い。

また、テング巣病という病気にかか った木は、ところどころにヤドリギの ような細かな枝が密生し、樹勢が衰え ていく (テング巣病は1次対策済)。

他にも、太い枯れ枝がある木もあり、 3月末の満開の時にあらためてみても、 記憶にある満開に比べてボリューム感 が低下しているように感じた。

台風の爪痕、だけではない

2月の観察会は、あいにくの雨の中、 桜以外の樹木で倒木や落枝のおそれが ある「危険木」をみていった。2018 年秋に関東地方に襲来した猛烈な台風 により、あちこちで倒木がみられた が、枝の生育のバランスが悪かったり、 枝や幹に腐朽がみられる高木もあり、 2019年もまた大型の台風が来る前に 対策が必要かもしれないと思った(大 学では伐採など実施中)。

派生イベント 竹林手入れ

2月の観察会終了後、2019年度に



画ははないだろうか、と聞かれて思い ついたのが、竹林の手入れ。キャンパ ス内には竹林があるが、年々「勢力」 を拡大していて、場所によっては荒れ ているようにも見えたからだ。4月末、 検討委員会の濱野先生、大学の総務部、 藤沼・上遠・布柴先生、同窓会関係者、 現役学生など、幅広い方々のご協力を いただき、キャンパス内の竹林の一角 で手入れ作業を行った。立ち枯れてい る竹や倒木を切って運び出し、混み合 った竹を間引いていくと、薄暗かった 竹林が見違えるほど明るくなった。時 期が遅いから、と期待していなかった タケノコも大小取り混ぜて15本あま

り掘り取れて、持ち帰っていただいた 方々からは「おいしかった!」と感想 が寄せられた。

今後のプラン

検討委員会は9月から活動を再開。 桜並木は弱った木の樹勢回復や植え替 え計画、キャンパス全体の景観の考察 などに取り組んでいく。雑木林は里山 として維持管理の方向性を探る。竹林 手入れも今後も継続できる体制を検討 していく。

また、検討委員会やワーキングチー ムはすそ野を広げるために現役学生の 参加も歓迎している。

ICUラグビー部60周年記念パーティーを開催しました

文・古曳旅人 (38 ID94)

去る2019年6月9日(日)にICUラ グビー部60周年記念パーティーを行 いました。人工芝グランドにて12時 半から若手OBと現役チームがOB戦で しのぎを削り、ハーフタイムにはシニ アOBOGによるタッチフットを行い ました。14時半から場所を学食に移 し、OBOG総会後に、60周年記念パ ーティーがスタート。ラグビー部の設 立メンバーから今年3月に卒業した方 まで、また ICUらしくオランダ、タ イなど海外からもお集まりいただき、 OBOGなどが104人、現役部員も50 人弱(恐らく過去最多)で、総勢約 150人となりました。

乾杯に続いて、ICUラグビー部 OBOG会の象徴とも言うべき渡辺芙 時雄さんの特別表彰、卒業50年を迎 えたOBへの記念品贈呈、初期のICU ラグビー部をご指導いただき昨年亡く なられた堀井藤浩先生の思い出、ラグ ビーワールドカップ2019組織委員会 事務総長特別補佐の徳増浩司さんから 日本ラグビーワールドカップ招致の裏 話、秋に予定している国際トーナメン トであるICUラグビー杯の紹介、現役 チームから今年の活動方針発表と応 援・支援のお願いなど、盛りだくさん で、2時間半のパーティーもあっとい う間に終了となりました。

幅広い世代が、ICUラグビー部とい う一つの絆で繋がって一堂に会する様 子は、まさにICUラグビー部OBOG会 の『家』というコンセプトを具現化し たものと言えます。

ICUラグビー部・OBOG会は、ラグ ビーワールドカップ開催・60周年を 記念したイベントとして、2019年10

月20日に「ICUラグビー杯」をICU人 工芝フィールドにて開催します。国内 外から集まったチームとの草の根交流 を目的としています。ラグビー部関係 者に限らず、ご興味のある方は是非ご 参加ください。

連絡先: 馬場 yuki.sh9.0327@gmail. com、山本 s101490@gmail.com



モザンビークのサイクロン被害へ派遣された 国際緊急援助隊に参加

文·写真提供:鈴木翔太 (49 ID05)

2019年3月中旬、ICUの桜が咲こう としている頃、アフリカ南東部に大型 サイクロン・イダイが上陸し、大規模 な豪雨・洪水被害が発生しました。モ ザンビーク、ジンバブエ、マラウイ各 地の犠牲者は700人を超え、約180万 人が被災したと報告されています。

日本政府は最も被害の大きかったモ ザンビークに対し、国際緊急援助隊 (Japan Disaster Relief: JDR) 医療チ ームを派遣し、3月28日から4月13日 まで救援活動を行いました。

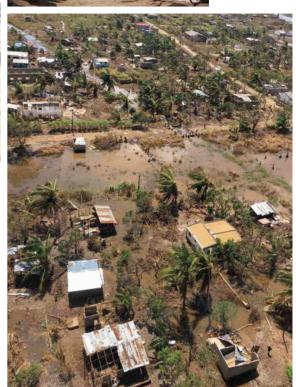
派遣地のグアラ・グアラ地区は、道 路の寸断で医療支援の手が届いておら ずコレラなどの感染症が増えてきてい ました。チームは資機材やテントをへ リコプターやトラックなどで輸送し、 同地区に野外診療所を設置して、多く の乳幼児を含む794人を診療しました。 症状が重い場合には都市にある総合病 院への緊急搬送を支援し、被災したモ ザンビークの人々の命をつなぐ活動を 行いました。

また、保健省の中には、世界保健 機 構 (World Health Organization: WHO)の支援のもと、JDRのような 海外からやってくる緊急医療チームを 調整しニーズの高いエリアに配置する 緊急医療チーム調整所が設置されてい たので、同調整所に対する支援も行い ました。

2人の同窓生が JDR医療チームに

このJDR医療チームの派遣に、ICU 同窓生の2人が参加しました。副団長 として参加したのは、独立行政法人 国際協力機構(Japan International Cooperation Agency: JICA) の神内 圭氏(33 ID89)。同氏はこれまでも 2011年のニュージーランド地震や

左上:左から通訳者、グ アラ・グアラ地区長、筆 者/右上:被災地の様子 /右下:診療所の前で待 つモザンビークの人々



2015年のネパール地震など何度も海 外の被災地へ派遣されており豊富な 緊急救援の経験を有しています。ま た、ICUでは生物学専攻だったので、 JICAに入構後はその知識を生かし熱 帯雨林やサンゴ礁などの生態系保全に も携わってきました(実務のフィール ド調査では標高4000m超から海面下 30mまで)。

もう一人は、医師や看護師がよりよ く活動できるよう諸々の調整を行う業 務調整員として派遣された、同じく JICA(当時。現在は日本赤十字社) の私(筆者)です。学生時代はワンダ ーフォーゲル部に所属し国内外の山々 を登っていました。活動中は、日中 40度近い気温になるなど非常に過酷 な環境でしたが、ワンダーフォーゲル 部で鍛えたサバイバルスキルを存分に 発揮し活動を完遂しました。ICU卒業 後、JICA青年海外協力隊として中央 アジアのキルギス共和国で活動してい た際に民族騒乱に遭遇し、人道支援の 道を志し、米国留学や国連人道問題調 整事務所でのインターンを経てJDRに 来ました。

緊急支援に生かされた ICUの教え

政府チームであるJDRは、JICAに 事務局を置き、神内氏と私はそこで勤 務しています。普段は、モザンビーク のような突然決定される派遣に備えて、 訓練の企画・運営やマニュアル作り、

資機材の調達・メンテナンスを行って います。また、WHOが主催する緊急 援助チームの国際会議にも参加しJDR の紹介や他国チームとの討議、国際的 な動向の情報収集などを行っています。

緊急支援の現場では、全てのことが 流動的で刻一刻と変わります。まず災 害が発生し、被害状況が分かってくる のは常に段階的です。状況に応じて、 どこにどれくらいのニーズが存在し、 それに対して使うリソースは何が適切 か、アプローチの手段には何を選ぶか、 安全状況はどうか、次々と決断が求め られます。

さらに、一旦判断を下してもすぐに 状況が変わり、再度判断を迫られるこ ともあります。例えば、モザンビーク で派遣地となったグアラ・グアラ地区 へは最初ヘリコプターでしかアクセス できないという情報があり、隊員と資 機材をヘリコプターのみで運べるかど うか検討していましたが、陸路でも念 のため偵察隊を出したところ、何とか 道路も開通しそうであるという情報を

得て、即座に空と陸の両方のアプロー チで隊員と資機材を輸送するプランに 組み替えました。

それは本当にそうなのか?と常に多 角的な視点から問うCritical Thinking の考え方は、ICUで勉強する中で培わ れ、緊急支援の現場においても有用で した。また、緊急医療チーム調整所で のタフな交渉や、WHOの国際会議で プレゼンターを務めるまでになれたの も、ICUの1年生時にELP(英語教育プ ログラム)漬けになり、日々英語で議 論・プレゼンを繰り返したからに他な りません。プロA(初級クラス)で英 語は得意ではなかった私は、課題が終 わらずに第一男子寮のスタディールー ムで何度ICUの森に住む夜明けのカラ ス達の鳴き声を聞いたか分かりません。

モザンビークから帰国しICUに行っ てみると、残念ながら桜はすでに散っ てしまっていました。しかし、桜は必 ず来年も咲きます。来年観に行く頃に は、モザンビークにも復興の芽が育っ ているといいなと思います。

腰痛・肩こり・頭痛を改善したいあなたへ

方が来院されています。三鷹駅南口徒歩1分の当院には、ICU関係者の方が来院者の4割を 占めています。当院では、関節の動きが鈍く神経の流れが悪くなっている箇所とあなたの症状との 関連性を分析し、症状の原因を特定します。独自のつくだ式カイロプラクティックケアによる治療、 「『姿勢の魔法』シャキーン!」メソッドによる知識、パーソナルトレーニングエクササイズによる運動の 3本柱によって、症状改善だけでなく、姿勢矯正、ひいてはあなたの理想の暮らしを送る健康サポートを します。ICUとご縁のあるあなたのお役に立てましたら幸いです。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

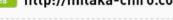
「ICUアラムナイニュースを見て・・・」とお電話ください。 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-7 平嶺ビル301号室



0800-888-4270 受付時間 ▶ 8:30~20:00









■1日3回で、ねこ背がよくなる「姿勢の魔法」シャキーン! ■姿勢をよくすると、人生がきらめく!

の2冊を出版しております。







満開の桜が迎えてくれた 平成最後の「桜祭り」報告

卒業50周年記念式典に出席した 13期生72人のみなさん

2019年3月30日に、毎年恒例の桜祭りが開催された。

たくさんの同窓生が集い行われた総会、DAY賞表彰式、卒業50周年記念式典、懇親会。 久々の再会を喜ぶ晴れやかな笑顔が見られた。

文:新村敏雄(本誌) 写真:丸毛徹

卒業50周年記念式典に 13期生72人出席

毎年3月下旬に開催される同窓会 「桜祭り」は、同窓会年次総会、DAY (Distinguished Alumni of the Year) 賞表彰式、卒業50周年記念式典、懇 親会などが盛り込まれた総合イベント。 悩みどころは日程決めで、キャッチフ レーズが「桜の下で会いましょう」な のに、桜並木はなかなか「祭り」当日 に咲き誇ってくれないからだ。

ところが平成最後の2019年は「異 変」が起きた。櫻井淳二同窓会会長い わく、「同窓会役員を5年務めている が、"祭り"当日に桜が満開になって いるのは初めて」。

総会では、「同窓生のために、つな がる・ひろがる」ことを目標として、 この1年間のさまざまな取り組みを紹 介し、2019年度も「発信力、組織力、 イベント力の向上」を念頭に、活動を 展開していくことを説明した。

DAY賞は5人に贈られた(13~15 ページにプロフィールとインタビュー を掲載)。受賞者の方々のスピーチは、 どれも感銘を受けるもの。とりわけ今 年85歳になられた金澤先生の「人生 を振り返ってみると、進むべき道を自 分から積極的に進んできたという気が しない。むしろ初めから進むべき道 が決まっていたのではないかと思うし、 カンボジア語で「夜明け」を意味する 「アルン」という社会的投資の会社を

主宰されている功能氏の「人間は弱い ものだが、弱さの中にある強さを信じ て共に歩むとき、隠された可能性が引 き出される、と信じる」という言葉が 印象的だった。

卒業50周年記念式典に出席の1969 年卒業の13期生72人という数字は、 再び櫻井同窓会会長によれば「この5 年間の50周年式典では、最も多い出 席者」とのこと。「当時の学生運動の あおりで卒業式がなかった皆様は、き ょうが新たな卒業式と思っていただけ れば」と祝辞を贈られた。

13期代表の吉良直人氏も「人の一 生は人との出会いの積み重ね。家族、 友人、仕事で知り合った人たちとの出 会いに感謝し、それを伝えていきた



2018年11月に竣工した新体育施設

い」と締めくくられた。

行委員会の学生による募金の呼びかけ や、グリークラブOB、OGによるコ ーラスの披露などが会場を盛り上げた。 今年のとっておきは、2018年11月 末に完成したばかりの隈研吾氏設計に よる新体育館見学ツアー。美しい曲線 を描く屋根、木造の天井アーチが目を 見張る室内プールなどに、参加者は感 嘆の声をあげていた。

大学食堂での懇親会では、ICU祭実



「教育資金贈与信託〈愛称: 孫への想い〉」は、 30歳未満のお孫さま等への教育資金として 当社へお預け入れいただき、

当社はお孫さま等からの払出請求に基づき、 教育資金をお支払いする商品です。

●5.000円からお申し込みいただけます。

●贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、 お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。 お申し込みは2021年3月24日まで

特長1 教育資金としてしっかり管理 贈与した資金は 使途が教育資金に 限定されるので 安心です。

【対象例】 学習熟• 学校等 そろばん

特長2 1,500万円まで非課税で贈与 お支払いは500万円まで 00 水泳: ピアノ・ 絵画 等 野球

特長3 無料! 管 理 料 払出手数料

お問い合わせ・資料のご請求は

0120-988-494 受付時間 平日9:00~17:00(土・日・祝日および 12/31~1/3はご利用いただけません)

お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

孫への想い 検索 その人を信じて、その人に託す。 *Meel* The Trust Bank





DAY賞受賞者インタビュー

2019年のDAY賞を受賞した5人のインタビューをお届けします。

文:望月厚志(本誌/金澤先生、長井氏分)、谷澤聡(本誌/安藤氏、功能氏、横田先生分) 翻訳:鈴木律(本誌) 写真:丸毛徹

金澤正剛先生(1)

KANAZAWA, Masakata (CLA 1)

音楽については、高校生の時からピアノを弾いたりして親しんでいました。でも、ICUに入学した時、将来何をしたいかについて明確なイメージは持っていませんでした。ところが、アドバイザーが古典学の神田先生と決まって初めて挨拶に伺ったときに、なぜかとっさに「音楽をやります」と答えてしまったのです。そして、幸運なことに新進気鋭の音楽学者バークハート先生がその年の秋学期に着任されたのです。そうしてバークハート先生のもとで音楽学を勉強することになりました。

ICUを卒業して米国に留学したいと考えた私は、奨学金をたっぷり出してくれたハーバード大学に留学することになりました。ハーバード大学もリベラルアーツの大学で、大学院でも音楽だけでなく宗教学とかいろいろな勉強ができました。そのときにリュート

(日本の琵琶に似た古典楽器)の授業に出会ったことから、西洋のそれもバロック以前の古い音楽を専門にするようになったのです。それ以降も人生の岐路に立つことが何度かありましたが、そのたびに結局は進むべき道が決まっていたような気がしています。

今年1月6日に私は85歳になりました。 幸い元気に過ごしているし、いろいろ と仕事も入ってきます。それは私には まだやるべき仕事が残されているのだ ということなのでしょう。

Being fond of music, I started playing the piano from high school. But on entering ICU, I could not picture what I wanted to do in the future. However, in my first meeting with my advisor, Professor Tateo Kanda, a classics scholar, I unwittingly blurted out that I would like

to major in music. Fortune would have it that Professor Charles Burkhart, an up-and-coming American musicologist arrived that fall. My studies in music began under his tutelage.

After graduating from ICU, I continued my studies in the United States and chose Harvard University, known for its generous scholarships. As a Liberal Arts institution, I was able to research into music, as well as religious studies and other subjects at the Harvard Graduate School. My encouter with the lute, a classical musical instrument similar to the Japanese biwa, lead to my majoring in pre-Baroque western music. Everytime a crossroad appeared in my life, I felt that the direction I would take was determined beforehand.

Having turned 85 in January this year, I am lucky that I am in fine health and still receive inquiries for all sorts of work. There is just so much more to be done.



ルネサンス音楽史専攻、古典音楽、宗教音楽の日本 における第一人者。人文科学の分野で日本人初のハ ーバード大学博士号を取得。研究・著作活動に対し、 米国ASCAP賞(1980)、日本ミュージックペンクラ ブ賞(1998)を受賞している。

Dr Kanazawa's speciality is Renaissance musical history. He is the authority in Japan on classical and religious music and was the first Japanese to receive a PhD from Harvard Graduate School of Arts and Sciences. His research and writings have received many honors, including the ASCAP Award from the American Society of Composers, Authors and Publishers in 1980 and the Japan Music Pen Club Award in 1998.

長井鞠子氏(11)

NAGAI, Mariko (CLA 11)

ICUでの生活を振り返り心にまず浮かぶのは「まるでおもちゃ箱をひっくり返したような4年間」です。「うわっ! 面白い」と思う授業の数々、今でも私が大切にしている音楽活動(当時からCMSでヴィオラを演奏)、女子寮での生活、本当にいろいろなことがありました。そして何よりも今の私のキャリアを決めるにあたって最大の決定要因になったのが1964年の東京オリンピック大会での通訳ボランティアです。

高校3年生のときにAFS交換留学制度を利用してテキサス州ダラス市の高校で1年を過ごした私は、英語になんらかの形で関わっていきたいと思っていました。そして、ICUに入学してすぐに学生通訳の募集があり、運良く学内選考に受かってオリンピックの現場に身を置くことができました。ICUは馬術と水泳の種目の担当になったのです。

それで、企業への就職はせずに、通 訳会社に登録してフリーランスの通訳 として社会人生活をスタートさせました。それからが大変でしたが、ICUでの教育のおかげで次から次へと対象が変わる通訳の仕事にもついて行けたと思っています。エジンバラ公フィリップ殿下、アナン国連事務総長(当時)、ダライ・ラマ14世、マイケル・クライトン……本当にいろいろな人との出会いがありました。

オリンピックにはその後も関わり、 長野オリンピック冬季大会での通訳や、 2020年東京オリンピック大会の招致 決定の瞬間に立ち会えたのもうれしい ことでした。

When I look back on my four years at ICU, the first image that comes to mind is a big overturned toy box, overflowing with memories of the many classes that absorbed me, the musical activities that I valued greatly (I started playing the viola in the ICU Chamber Music Orchestra and have continued since), life in the women's dormitory and so much more. Above all, the biggest factor in determining my professional career was volunteering to interprete at the 1964 Tokyo Olympiad.

In my third year of high school, I spent a year in Dallas, Texas as an AFS exchange student and wished to maintain my connection to the English language. Soon after entering ICU, I realized that the school was looking for student interpreters, was lucky enough to pass the internal screening process and found myself at the Olympic venues. The ICU students were in charge of equestrian sports and swim events. There, I inadvertenly came to a conclusion that interpreting is such an easy job!

On graduation, rather than joining a firm, I registered as a freelance interpreter at an agency and started my professional life. From then, the path became arduous, but because of the educational training at ICU, I was able to keep up with the constant stream of different subjects that I confronted. H.E. Prince Philip, Duke of Edinburgh, United Nations Secretary-General Kofi Annan, the 14th Dalai Lama, Michael Crichton...so many encounters with so many people.

My association with the Olympics continued: interpreting at the Nagano Winter Games and culminating in the joy of witnessing Tokyo chosen to host the 2020 Olympiad.



同時通訳として日本で草分け的存在。在学中の1964年東京オリンピックで通訳を体験、同時通訳の道に入る。以来、多くの国際会議・首脳会議などで活躍、IOC総会では2020年東京オリンピック招致にも貢献した。

Nagai is a pioneer amongst simultaneous interpreters in Japan. She first worked as a student interpreter at the 1964 Tokyo Olympics and continued to interprete in various international conferences, summit meetings and others. She contributed as an interpreter at the IOC Session in Bueno Aires, which selected Tokyo as the venue for the 2020 Olympiad.



安藤公秀氏(26 ID82)

ANDO, Kimihide (CLA 26, ID 82)

恥ずかしながら、DAY賞の存在を知らず、連絡を受けた時は「え、DAY賞?」というのが正直な気持ちでした。その後、賞の趣旨や過去の受賞者の功績を知り、とても身にあまる思いでした。しかし、2018年はパキスタンから外国籍民間人に授ける最高勲等を受勲した年でもあり、自身の人生におけるピークとなろう年でした。今回頂戴できないと、とてもこれからは無理だろう、との考えから栄誉に預からせていただくこととしました。

卒業する際、第二男子寮の後輩たちにメッセージを送りました。「大学4年間でいろんなばかな事、あほな事をしたけど、大学時代の全ての無駄なことが、無駄じゃなかったと思える時が来る気がする。一緒の時を過ごしてくれてありがとう」というメッセージです。その後、スティーブス・ジョブスが2005年に有名な「Connecting dots」のスピーチをしましたが、彼より20年以上前に同じようなことを言っていたなと不遜に思いました。

11月に定年退職を迎えます。人生100年と言われますが、自分は欲張り

なので人生120年、そろそろ折り返しだな、という気持ちです。今後は、勲章までくれたパキスタンに何か恩返しをして、日本とパキスタンの関係を強化・深化させる力になりたいです。

また、教育にも何らかの形で関与・ 貢献してみたいという気持ちもあり、 あれこれ考えています。でも何よりまず体を鍛え直さなければと思っています。ジム通いを始めた頃にはベンチプレスで40キロ挙げるのもおぼつかなかったですが、今は65キロを挙げられるようになりました。11月末までに80キロを挙げるのが目標です。

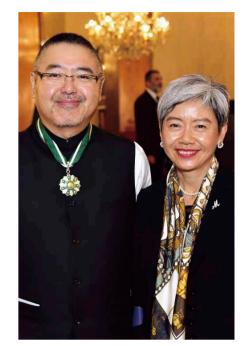
I am ashamed to admit it, but I had no knowledge of the ICU DAY awards. When first communicated, I may have said "DAY...what's that?" Later on having learned about the purpose of the award and the achievements of the past awardees, I felt it is an honor greater than I deserve. In 2018, the government of Pakistan had conferred on me the Sitara-e-Pakistan (Star of Pakistan), the highest medal for any private sector individual, which I thought was the apex of my career. Without probably a second chance to be awarded the DAY prize, I

have decided to accept the prize this year.

On graduation, I sent a message to the young occupants of the Second Men's Dormitory. "I did a lot of stupid and crazy things during the four years at university, but there will come a time when all the idle things that we did will have use and meaning. Thanks for sharing your time with me." In 2005, Steve Jobs of Apple gave the "Connecting the Dots" speech. I had the audacity to make a similar exhortation more than twenty years before.

Later this year in November, I will reach my retirement age. Many people talk about our life span extending to a hundred years, but being a little greedy, I want to live to 120. So this year is the halfway point. From now on, I would like to repay the kindness to the country that bestowed on me the Star medal and strengthen and broaden the relationship between Japan and Pakistan.

Furthermore, I am giving plenty of thought to the idea of engaging and contributing to education. But first and foremost, I must build up my muscle power. When I started to go to the health club, I could only lift 40 kilograms on the bench press. Right now, my upper limit is 65 kg and the goal for November 80 kg!



授賞式欠席のため写真は本人提供。 右は妻の昌氏 (27 ID83)

前三菱商事パキスタン総代表、パキスタン在住。 20年に渡る日・パ両国の架け橋としての貢献に対 して、2018年3月に「パキスタンの星」最高栄誉賞 を受勲した。ビジネスだけでなく両国の文化交流に も幅広く活動している。

Ando is the CEO of Mitsubishi Pakistan and currently stationed in the country. In March 2018, he was conferred the Sitara-e-Pakistan, the highest honor for any private sector foreign person for his 20-year service as a bridge between Japan and Pakistan. He has been active in both business and cultural exchanges.

功能聡子氏(31 ID87)

KONO, Satoko (CLA 31, ID 87)

ICUが私に与えた影響は大きく2つ あります。1つは、生物学を専攻して いた際の2人の恩師です。先生が、新 しい理論や現象を喜々としてはなされ る様子がまるで子どものようにとても 楽しげに伝わってきて、発見すること の喜びや探究心を教わりました。先生 からは今でもメールや年賀状でいろい ろな言葉をいただいています。例えば、 「変化なくして進歩はありえない。だ から自分の考えを変えることのできな い人はなにも変えることはできない。 (ジョージ・バーナード・ショウ)」と いう言葉があります。ご高齢の先生か ら、"変化なしで進歩はない"、"変化 は自分自身から"というメッセージを いただき、非常に勇気づけられたこと を覚えています。この言葉をいただい た際、私自身も先生の"進化を続けて いくスピリット"の影響を受け、新し いことを探求する姿勢に繋がっている のだと気づきました。

もう1つはワンダーフォーゲル部で の活動です。山では、一歩一歩、地道 に進むしかありません。前進かあるい は撤退か冷静に判断しなければならな い局面も経験しました。仲間と共に考え、行動し、山と向き合っていくことは、生き方と通じる点があります。実は私は地道なことがあまり得意ではないですが、ワンゲルでの経験、つながりの深い仲間と過ごした時間を通じて、一歩一歩、進むことの大切さも学びました。

国際協力の仕事をしていた時、もっと現地の人たちのオーナーシップやエンパワーメントを高める方法は何だろう?と考えた時、まだ日本ではあまり知られていなかった社会的投資という方法に巡り合いました。そして今も、一歩一歩、地道に探求をしていきたいというスピリットで、新しいビジネス、投資のあり方の実現に取り組んでいます。

The lasting impact of ICU for me is twofold: first, the two mentors who tutored me in my major of biology. My professors talked excitedly about new theories or phenomena as though they were children, teaching me the joy of discovery and the spirit of inquiry.

Even today, I receive e-mails and new year greeting cards containing words of wisdom from them. For example, "Progress is impossible without change, those who cannot change their minds cannot change anything. (George Bernard Shaw)" Such axioms as "One cannot progress without change" or "change start from oneself" written by the elderly professors have left a profound impression on me. On reading these words, I realized that my questioning mind into new things was laid down by my mentors' spirit of continuous progress.

The second impact was the wondervogel (mountain trekking) club. One has to plod on, one step at a time and ceaselessly make cool calculations as to go forward or to retreat. To together think and hike with fellow climbers and to come face to face with the mountains, has common elements with life itself. Through the wandervogel activities, I learned the importance of spending time with close friends and proceeding step by step.

In the field of development assistance, how can ownership and empowerment be strengthened? When confronted with this question, I came across the strategy of Social Investment, still little known in Japan. I am pursuing this strategy one step at a time, imbued with the spirit of unfaltering perseverance.



NGO/世銀/JICAなどを経て、カンボジアでの支援経験から、ビジネスを通じた脱貧困を支援するARUN (アルン)を2009年に創設、社会貢献ビジネス・社会的投資の先駆となる。2018Forbes Japan「地球で輝く女性100人」に選出された。

Having worked to assist the people of Cambodia at a non-governmental organization, the World Bank and JICA, Kono set up ARUN in 2009 to provide poverty relief through business ventures. She is a pioneer in social business and investment and has received a Forbes Japan Women Award 2018.

横田洋三先生(8)

YOKOTA, Yozo (CLA 8)

DAY賞のような賞を主催している 同窓会は、日本では珍しいと思います。 そして、この賞は特異な賞でもあると 思います。何が特異かというと、日本 社会で一般的に言われる成功を収めた 人に授与するのではなく、"ICUの理 念を日本や世界に広めている"という 独自の視点で選考していると思われる 点です。そのような賞を受賞し、本当 に名誉なことであり嬉しく思っていま す。

26年間ICUで教鞭をとってきて、 さまざまな学生とゼミや論文指導で交 流がありました。その学生たちが国連 機関や国際法の学者、また、企業での 人権担当など、それぞれ社会において 力を発揮できる仕事に結びつき、私が 「彼らの指導者であること」を評価し ていただけたことが、とても嬉しいで す。

私のクラスでは、実習を非常に大事 にしており、これまでいろいろなとこ ろへ学生を連れて行き、現場を見せて きました。例えば、スイス・ジュネー ヴの国際連合人権委員会の傍聴に学生 たちを連れていったことがあります。 できる限りの工夫を重ねて安くアレン ジをして連れて行き、学生たちにとて も良い経験をしてもらうことができま した。こういった指導が長い時間をか けて実を結び、彼らのさまざまな活躍 につながっているのだと感じています。

教鞭をとってきた日々も重要ですが、 私自身、学生としてICUに在学してい た4年間が、学者や社会人としての大 切な基礎になりました。授業の方法や 先生の話し方などが、その後に活かさ れています。

最初は国際関係論を学んでいたので

すが、論文を書く時になって担当の先 生が大学を離れてしまい、国際関係論 に近い分野ということで国際法を学び ました。それがきっかけで東京大学大 学院に進み、国際法学者の道へとつな がっています。ICUで学んだ経験がな かったら、その後の人生は全く違った ものになっていたかもしれません。ま た、ICUに非常勤で来ていた、私の恩 師である東京大学名誉教授の故高野雄 一先生の授業を受講しなかったら、私 は東大の大学院にも進学しなかったで しょうし、国際法も研究しなかったか もしれません。

さらに、ICU第二代学長の故鵜飼信 成先生が、コロンビア大学の世界的に 有名な学者である故ウォルター・ゲル ホン先生を紹介してくださり、学生時 代にコロンビア大学まで会いに行きま した。コロンビア大学とは以降もずっ と関わりが深く、客員教授として2度 教えに行ったこともありました。ICU での経験がなかったら、それも起こり えなかったことです。学びはもちろん、 さまざまな人間関係すらもICUから始 まったのだと今では思っています。

本コメントをいただいた2か月後 の6月12日、横田先生の訃報が飛 び込んできました。78歳でした。 お話を伺った際はとても元気にイ ンタビューに応じて下さっていた だけに、衝撃が大きかったことが 今でも思い出されます。改めて、 お悔やみ申し上げます。

Japanese university alumni association that sponsor awards like the Distinguished Alumni of the Year, DAY, is rare and unique. What makes it unique is that rather than honoring someone who has in a general sense succeeded in Japanese society, awardees are selected based on the single criterion of spreading the ideals of ICU in Japan and across the world. I am honored and overjoyed at receiving this prize.

During my 26 year tenure at ICU, I was in contact with many students through seminars or in tutoring them to write up their graduation theses. Upon graduation, these students would go on to work in the United Nations, as international law scholars or as corporate custodians of human rights. They pursued professions in which their capabilities were given full play. I am extremely happy that my mentoring to these students has been highly evaluated.

My classes put importance on practice, accompanying my students to various places and showing them the actual institutions and conferences. For example, on one occasion, we observed the discussions at the UN Commission on Human Rights. With creative arrangement, costs were pared to the bone to give my students a quality experience. With time, such mentoring has born fruit and lead to their wideranging achievements.

Teaching at ICU was an important time for me, but the four years that I spent as a student laid my academic and adult life foundation. I put into practice the pedagogical methods and public speaking learned at ICU.

My original major was International Relations, but I switched to International Law, an adjacent discipline, following the departure of the professor who would have advised me on my graduation thesis. That lead to further research at the University of Tokyo Graduate School and my becoming a international law scholar. If I had not experienced what I did at ICU, my life would have been totally different. If Dr Yuichi Takano, professor emeritus at the University of Tokyo and my beloved mentor, had not been teaching a few classes at ICU,



国際法・人権保護の分野で研究・実践双方で多大な 実績をあげ、著作多数。世界銀行、国連人権委員会 など国際機関での活動歴も豊富。ICU元教授時代の 教え子からは、国際機関職員や外交官を多数輩出し

Dr Yokota was an International Law and Human Rights scholar and practioner, and has written widely. He held various posts in global organizations, such as the World Bank, UN Human Rights Commission and others. Many students he taught at ICU have worked or are working as diplomats and international civil

I would not have studied under him, advanced to the University of Tokyo nor majored in International Law.

Furthermore, if Dr Nobushige Ukai, the second ICU President, had not introduced me to the globally renowned Dr Walter Gellhorn of Columbia University, I would not have visited that campus during my student days. My association with Columbia University continued, twice serving as visiting professor. Without my ICU experience, none of this would have happened. My studies and interpersonal relations all find their roots at ICU.

---- After making these comments, Dr Yozo Yokota suddenly passed away two months later. He was 78. We were shocked, particularly because he seemed to be in fine health during the interview. We would like to offer our deepest condolences.

≪ICU 同窓会の皆様へ≫ 三井住友トラスト VISA ゴールドカード 年会費を大幅割引!

VISA ゴールドカード

ロードサービス VISA ゴールドカード / 期間限定キャンペーン実施



通常年会費10,000円(税別)

ROAD SERVICE VISA GOLD 0153 4281 8401 通常年会費11,000円(税別)

2,500円(税別) 3,000円(税別)

キャンペーン期間:2020年4月30日迄

期間中にご入会された方全員に VJA ギフトカード 1,000 円分を

プレゼント!! ※本会員・家族会員同時に ご入会の場合は、

2,000 円分プレゼント



- ★ ご家族の方でも本会員申込みOK!
- ★ 同窓会にもメリット!!

カード利用額の一部が同窓会に還元!

★ ゴールドカードの主なお役立ちサービス *海外・国内旅行傷害保険 *お買物安心保険 *空港ラウンジサービス *ドクターコール24 *ワールドプレゼント

※家族会員年会費は 1,000 円(税別)です。 ※ロードサービス VISA ゴールドカードは、別途 ETC 年会費 500 円(税別)がかかります(初年度無料)。 なお 1 年間に 1 回以上 ETC のご請求があれば次年度は無料です。

※ご入会に当たっては、弊社所定の審査がございます。

申込書請求先 (MAIL、FAX の方は、ICU 同窓会員であることに加え ①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 をご送信下さい。)

☎TEL 0120-370-070 **愛FAX** 03-6737-0834

年目以降も

 \bowtie MAIL Moushikomi@smtcard.jp (取得した個人情報は VISA カード入会申込書を送付する事に限定いたします。)



Think globally, act locally.

"ここ"から始まるストーリー

東京・三鷹市にあるICU。そこから数多くの卒業生たちがさまざまな場所へ旅立っていった。
ICUの「I=International」を意識せずとも胸に刻み込んで過ごした大学時代を経て、今、卒業生はどのように生きているのか。
この企画では、国内の"ある場所"で活躍する仲間にスポットを当て、その地で活動を始めた経緯やその地の魅力を聞いた。
そこから見えてくる、"地域にこだわり、地域にとらわれない"生き方とは——?



400年続いてきたものを絶やさないようにしたい

長野県松本市 竹細工職人·百瀬晃平氏(59 ID15)

文:杉岡隆(本誌) 写真:佐々木雄大

信州・須賀川竹細工の伝統の灯を受け継ぐICUの卒業生がいる。百瀬晃平氏は、松本市内のセレクトショップに勤務しながら、長野県の伝統工芸である信州竹細工を学んでいる。

長野県下高井郡山ノ内町の北部に位置する須賀川地区は、江戸時代よりつづく信州竹細工の主要生産地の1つである。信州竹細工は主に山ノ内町須賀川、長野市戸隠で製造されており、長野県の指定する伝統工芸品となっている。一般的な竹細工は、真竹や孟宗竹といった、スラリとまっすぐ伸びた竹を用いてつくられるが、信州竹細工は「根曲がり竹」を使ってつくられる。

「根曲がり竹」は、その名の通り、根元が曲がっており、ほかの真竹や きょうきく 孟宗竹と違って厳密には「タケ」ではなく「ササ」。百瀬氏によると、

「真竹を使って作られたものが洗練されたものだとするならば、根曲がり竹をつかってつくった竹細工は、竹自体が曲がっていてゆがんでいるので、泥臭いもの。農具や台所の物入れといった用途に使われ、粘り強く弾力があり、衝撃に強い。また、一般的な竹細工はさらしの工程がありますが、根曲がり竹を使って作られたものは、さらしをしなくても、独特のつやがあるのでそのまま使うことができます」

森林総合研究所の研究によると、根曲がり竹は、日本海側全域と、東北地方北部・本州中部の山岳地域に自生生る。根曲がり竹をつかった竹細工は長野以外にも、青森や岩手、福島など地域にそれぞれの特色があり、ホタテ蒸し籠」、でもれぞれの特色があり、ホタテ蒸し籠」、でははではない、編み方を地域や作り出てはない、編み方も地域や作りによって違い、百瀬氏ら竹細工職人は「この編み方、だれだれさんだね」とわかるという。

「竹細工に惹かれたのは、竹のみで 完結するシンプルさ」だと百瀬氏は言 う。また、ハレの日でしか使われない 伝統工芸品もあるが、竹細工は生活に 密着した「日用のもの」であるという 点でも強く惹かれたという。

湯浅八郎記念館に何度も通った

百瀬氏が、この「日用のもの」に惹かれるようになったのは、柳宗悦の民芸運動に原点があるという。ICUにいた頃、大学図書館の新刊本のコーナーでたまたま柳宗悦の『手仕事の日本』を手に取ったことがきっかけとなった。また、博物館学の授業で、博物館や美術館へ行く機会が増え、特に学内にあ

る湯浅八郎記念館には何度も通った。 ICUの図書館には湯浅八郎の影響もあって民芸関係の書籍も多くあったことは、百瀬氏にとってかけがえのない環境であったという。

そもそもICUへの進学は高校1年生の時にたまたま出席した高校生対象のセミナーで鈴木典比古学長(当時)の話を聞いたことがきっかけだった。特に専攻が2つ選べることが決め手となりICUへの進学を決心した。言語学と数学を専攻しようと考えていた。

学生の時に特に心に残ったのは、宗 務部主催のタイでのワークキャンプだ。 現地の人たちや同じ学生たちと教会を 建てたことだという。

「ものづくりに向いている」と 気づいた就活

学生生活も終わりにさしかかった頃、 周りと同じように就活を始めた。しか し、就活をするにつれて、自分にはも のづくりが向いていると気がついた。 もともと、何かものをつくることは好 きだったが、竹細工をやったことはな かった。

地元、長野の県庁の「ものづくり振 興課」にいき、長野県中小企業団体中 央会を通して、戸隠の竹細工職人を紹 介してもらった。しかし、弟子を取る 環境ができていないこと、竹細工だけでは安定した収入を得られないことを理由に話はうまくいかなかった。そして、その後に須賀川の竹細工職人を紹介してもらう。須賀川の竹細工職人のもとに定期的に教えを受けに行くとともに、同じ町内のホテルに就職し、安定した収入を得ながら竹細工の技術を身に着ける環境が整った。

現在は、ホテルでの仕事は退職し、 松本市内の企業に勤務しながら須賀川 の竹細工に打ち込んでいる。百瀬氏が 作った竹細工の作品は地元のセレクト ショップや、須賀川竹細工振興会員と して百貨店等で開催されるイベントに 出品されている。百瀬氏は、「自分で つくった作品は、今いいと思っても、 あとになって見直すとまだまだだなと 思う」と謙虚に、挑戦を続けている。

「松本」のいいところ

●山と川

住んでいるとわからないが、ほかの地域から来た人はよく「山脈がきれい、川がきれいと」いう。他にはない、響くものがあるのでは。また、文化や、気候もいいところ。ものづくりをするために移住してくる人も最近は増えてきている。

お邪魔します! あのメジャー

全31の中から気になるメジャーを紹介

今回は、グローバル研究を取り上げます。

地球的規模の課題に疑問を投げかけ、グローバル・ガバナンスの仕組みや 関連現象の真理を学際的に追究。問題解決のためのリーダーシップを発揮し、 パートナーシップ形成に貢献する責任ある地球市民を育成することを 目的とする本メジャーについて毛利勝彦教授にうかがいました。

文・写真: 谷澤聡(本誌)

グローバル研究と 国際関係学の違い

グローバル研究では、「地球規模の課題を学際的に追究し、地球市民としての教養を磨くこと」をゴールにしています。グローバル研究と国際関係学は一見すると似ているように見えるかもしれません。そこで学生には、グローバル研究と国際関係学は「存在論と認識論という観点において異なっている」と説明しています。

存在論とは、"何が存在するか"ということです。国際関係学では、例えば国ごとに色分けされた世界地図のように、"まず国家が存在する"存在論を示しています。一方で、宇宙から地球を見ると、国境は見えずに海や大陸や雲が見えますね。これが、グローバル研究の存在論です。

一方で、認識論とは、"どのように知ることができるか"ということ。もともと政治学をベースにしている国際関係学に対して、グローバル研究では、政治学、経済学、社会学、人類学、言語学、コミュニケーション論など、広範な分野からより学際的なアプローチをとっています。国境を越え、地球規模での変化を複眼視することで見えてくるものがある。それがグローバル研究の存在意義です。

ICUでグローバル研究を 学ぶ意義

国際性への使命を掲げているICUで すが、その創立に尽力された山本忠興 博士は「インターナショナル」よりも 「グローバル」というネーミングが良 い、と考えていらっしゃったと聞いて います。これは今日のグローバル化が 始まる半世紀も前のことです。とても 鋭い先見の明だったのではないでしょ うか。多様な学生や教員の構成はもち ろん、寮生活など、ある意味でICUは グローバル社会の縮図であると考えて います。ICUのキャンパス・ライフか ら学生一人ひとりのグローバル化が始 まっている、これがICUにおけるグロ -バル研究の強味の一つであると思い ます。

「疑問」を「発見」に変えよう

学生たちには、"学びの中でたくさんのクエスチョン・マークをエクスクラメーション・マークに変えよう"と伝えています。世の中に調子を合わせるのではなく、疑問に思うことを新しい発見に変えようと。かつてICUを訪れたエレノア・ルーズベルト氏に対して1期生がICUの印象を質問した際、"Wonderfu!!"という回答があったと記録されています。疑問を抱くことが始まりであると考えているので、文字通り、"Wonderがフルのキャンパス"にしていけたら良いと思っています。

また、学生には何かを身につけると いうよりも、今まで身につけていた偏 見や思い込みを一度脱ぎ捨て、知らな いうちにがんじがらめになっていた自 分を解放することを願っています。ミ ケランジェロは「大理石に閉じ込めら れているエンジェルを解放するまで 彫ること」が彼のアートである彫刻 の本質だと言いました。それに倣っ て、"本来あるべき自分や、社会や自 然の真善美を見出すこと"がリベラル アーツだと私は考えています。その意 味では、ミケランジェロの言うところ の"解放されたエンジェル"の翼を身 にまとうことこそがこの大学の使命な のではないでしょうか。

さざ波が大きな波になるとき

グローバル研究のカリキュラムは、Global Politics and MarketsとGlobal Society and Communicationという2つのトラックで構成されています。学生の関心によってどちらかのトラックに集中しても良いですし、両方のトラックをバランス良く履修するのも良いです。私自身はメジャー選択に必要な「グローバル・ガバナンス論」という基礎科目を担当しています。ケースメソッド教授法を使いながら、グローバル化に伴う様々な事例を学際的な理論を駆使して分析していきます。

また、私自身の研究としては、日本の環境外交や核軍縮をはじめ、SDGs (持続可能な開発目標)の中でも主に気候変動や生物多様性をめぐる国際関係に関する研究プロジェクトに参加しています。パリ協定にしてもSDGsに

第18回 グローバル研究毛利勝彦教授

MORI, Katsuhiko

1983年、横浜市立大学文理学部国際関係課程卒業。1987年、国際大学大学院国際関係学研究科修士課程修了。1994年、カールトン大学大学院政治学研究科博士課程修了。2004年、国際基督教大学教養学部国際関係学科準教授。2007年、教養学部教授。2017年4月から2019年3月まで教養学部長。主な研究テーマは、持続可能な開発と地球環境ガバナンス、グローバル・ガバナンスの国際政治経済学的接近、国際関係学のアクティブ・ラーニング。



しても、"どのような条件が揃うと世界が変わるのか"を知りたいと思っています。グローバル社会では、アイデアやアイデンティティの相対的重要性が高まっていると言われています。しかし、すべてのアイデアが広がっていくわけではありません。パワーと利益、そしてアイデアが三拍子揃った時に変わるのだと考えています。つまり、世界を変えるさざ波が大きな波になる条件を明らかにしたい。

グローバル研究への期待と今後

"The place is local. The problem is global."という表現があります。また、グローカリゼーションやフラグメグレーションという言葉もありますが、統合と分断が複合的に同時並行する世界において、ホームでもアウェーでも動ける活躍を学生には期待しています。サッカーのポジションでいうと、ミッドフィールダー型のリーダーシップへの期待とも言えるかもしれません。

これまで、グローバル研究教員の 担当授業では、Global Liberal Arts Allianceに加盟する海外大学の教室 とオンラインで繋ぐGlobal Course Connectionsというプロジェクトに取 り組んで来ました。デジタル・ネイティブの世代には、サイバースペースを 通じたグローバルな対話による学びに 加えて、ICUが大切にしてきた対面交 流や現場体験による学びのグローバル 化も同時に進めていきたいと考えてい ます。

グローバル研究のデータ

- ●開講されている主な授業科目
 グローバル・ガバナンス論
 多国籍企業経営論
 金融,貨幣と金融市場
 地球市民社会論
 地球環境と持続可能な開発
 グローバル社会正義論
 宗教人類学
 コミュニケーション・テクノロジーと
 社会
 国際人口移動とエスニシティ
 グローバル社会におけるコミュニケーション
- ●担当教員(2019年度現在) ブラウン, ベルナルド エンリケ BROWN, Bernardo Enrique ドーソン, ウォルター P. DAWSON, Walter P. 藤田ラウンド 幸世 FUJITA-ROUND, Sachiyo 鄭 朱泳 JUNG, Joo-Young J. マラーニー, ショウン K. MALARNEY, Shaun K. モンゴメリ, ヘザー MONTGOMERY, Heather A. 毛利勝彦 MORI, Katsuhiko 齋藤 潤 SAITO, Jun 謝 豫琦 TSE, Yu-Kei フォッセ, ヴィルヘルムM. VOSSE, Wilhelm M.

From the University

大学のページ

大学事務部署紹介の第5回は、学生と教職員の健康をサポートするヘルスケアオフィスです。 最近は、健康相談のみならず、「食」に関するイベントを開催するなど、新たな取り組みを始めている、ヘルスケアオフィスの今を紹介します。

ヘルスケアオフィス

文:ヘルスケアオフィス保健師 丹沢美樹



ヘルスケアオフィスの紹介

ヘルスケアオフィスは、学生と教 職員のための保健室です。かつては 「クリニック」という名称でしたが、 2014年度で保険診療を終了し、2015 年度より「ヘルスケアオフィス」に変 わりました。主要業務として、定期健 康診断の実施と有所見者フォローなど 実施後の対応、健康相談、医療機関紹 介を行っています。他に、学生向けに は留学プログラム参加者へ健康管理の オリエンテーションなど、教職員向け には(2015年から50人以上の事業場 に義務化された) ストレスチェックの 実施や、休職中・職場復帰後の面談や サポートなどを行っています。専任職 員1名、派遣職員3名、校医兼産業医1 名の小さな部署です。

健康相談というと身体のことを連想する方が多いようですが、広義の健康相談は、医療・症状の相談だけでなく、生活・人生の相談にまで及びます。例えば、職場領域での健康相談の項目は、健康診断結果の解説、不定愁訴*が好転しないことはもちろん、残業、職場の人間関係など仕事のこと、運動、食事、睡眠など生活と健康づくりのこと、

余暇、生きがい、定年といった人生のこと、また家族の健康問題についてなどさまざまです。学生も、自身の健康問題の他に、家族・友人関係、将来に関する悩み、自分自身との付き合い方など、それぞれの悩みを抱えてやってきます。身体症状の訴えを言葉通りたかったことは別にある場合もしばしたかったことは別にある場合もしばです。対話の中で、学生に必要ないます。留学生は伴侶を伴って来日している場合もあり、パートナーの健康問題についても詳細を聞き、医療機関を紹介するなどしてサポートしています。

*「頭が重い」「イライラする」など特定の病気としてまとめられない漠然とした体の不調の訴え

学生を「食」の面からも サポート

最近は料理を通じて学生生活を支援するなど、さまざまなイベントに注力しています。昨年、ヘルスケアオフィスとして初めて料理教室やアフタヌーンティーを開催し、参加学生に好評でした。今年はICUのコミュニティでこ

そできるような料理教室をと思い、教 職員から我が家の簡単レシピを募りま した。集まった17のレシピで学生投 票を行い、総投票数3,335の中から人 気だった5品を作りました。レシピを 寄せた職員が参加して、直々に作り方 を学生に伝えることができた品もあり ます。教職員が学生を「食」の面から サポートし、同時に教職員と学生との 繋がりを深めるよい機会になったので はと思います。調理過程ではグルー プで協力して作業しますから、その 過程でたくさんの会話が生まれ、学年 を超えた交流の場にもなってきていま す。また、新任職員研修・管理職研修 や、気分転換にもなるような楽しい健 康教室の実施など、教職員向けの取り 組みにも努めています。

学生に寄り添う支援を模索

来室者数は年々増加しており、学生の相談事も多様になっているように感じます。時に対応に悩むこともありますが、学内の他部署と協力して、あるべき接し方を探しています。先の通り、健康相談の内容は多岐に渡り、その時の学生の状況や希望もさまざまで、こちらが必要と思う支援を希望しない場

合もあります。悩みと共にあり身動き できない学生がいた時には、保健室と しての支援の仕方、寄り添い方を全員 で考え、対応しています。

こうした中で、頻繁に来室していた 学生が徐々に自律していく様を見られること にやりがいを感じます。また、留学生 の利用者の多くは、ヘルスケアオフィスでの対応に感謝してくれることです。 は低いです。律儀にお礼を言いに来てでの は低いでするならの海外生活での ないです。留学生との会話では、 と思います。留学生との会話では、 と思います。 といます。 とがあります。 スタッフがアルーに はているなど、思いがけない楽しい発 見もその一つです。

学生・教職員向けの 健康教育を推進

現状は食事面や学生間の交流など大学生活に直結した活動を中心としていますが、人生のさまざまな時期における健康や生き方についても、健康教育をしていけたらと思います。大学生のうちから知っておくことで、その人らしい健やかな一生に繋がる知識はたくさんありますが、目の前の生活に多忙な学生に興味を持ってもらうことが課題になりそうです。

また、学生を支える教職員が元気で、働く喜びを感じながら活躍できる職場であるように、相談対応や関係者との連携、学内教育など、産業保健職としての役割を一層果たしていきたいです。適切な学生・教職員対応を実現するために、チームビルディングやスタッフ教育など、部署内でも継続した取り組みが必要だと思っています。

Health Care Office

The fifth installment of a series of articles to introduce university offices will focus on the Health Care Office that works to support the healthy lives of students, faculty and staff. Let's look into the latest activities of the Health Care Office providing not only health consultations but also new services such as food-related events.

Text: Miki Tanzawa, Health Care Office

Introduction to the Health Care Office

The Health Care Office offers nursing care and health counseling to students. faculty and staff. It used to be called a "clinic" but ceased providing health insurance treatment in AY2014 and was renewed as the Health Care Office in AY2015. Its main responsibilities consist of implementation of regular health checks and follow up for those whose results indicated a health problem, provision of health counseling and referrals to medical institutions. As part of its services for students, the Office offers healthcare orientation for students participating in study abroad programs. For faculty and staff, it implements stress check tests (which have been mandated to workplaces with 50 or more workers since 2015) and provides consultation and support services to those who are on a sick leave and those who have returned. It is a small unit comprised of one permanent staff, three temporary staff members and one university/occupational physician.

In hearing the word health counseling, most people seem to associate the term with physical conditions. In a broad sense, however, health counseling refers not only to medical and symptom-based consultation but encompasses other aspects of life in general. For example, items of workplace health counseling cover a wide range of topics from health check results, unidentified complaints, items related to work like overtime work and workplace human relations, daily life and health promotion such as exercise, diet, sleep, to life concerns like leisure, one's purpose of life, retirement and family health problems. Students too, visit us with various problems such as relationship problems with family or friends, anxieties about one's future, getting along with oneself, as well as health-related concerns. At times, we need to pay attention to signs other than the physical symptoms the consulter complains about, because there may be other things they really want to talk about. Through dialogue, we try to find out what support the consulter needs together with the consulter. Some international students are staying in Japan with their spouse or partner, so we support the partner's health problems as well, listening to the details of the symptoms and referring to an appropriate medical institution.

Supporting students' diet

Recently, we are committed to various events for supporting student life through cooking. Last year, the Health Care Office held cooking classes and afternoon tea events for the first time, which won favorable reviews from the participating students. This year, we wanted to hold a cooking class characteristic of the ICU community and solicited easy-to-make my home recipes from ICU faculty and staff. Of the 17 recipes shared, 5 most popular items were chosen by a student poll which gathered a total of 3,335 votes. For some of the recipe items, the staff member who contributed the recipe participated in the event to instruct students how to cook the dish. We believe it was a great opportunity for faculty and staff to support students from their diet and deepen ties between faculty/staff and students. Since the cooking process is carried out in groups, students were enjoying conversation and exchange across different grades. We are also working to provide the services for faculty and staff such as training programs for new staff and managers and enjoyable health classes that would serve as a refresher.

Searching for measures to support and encourage students

Students who visit the Health Care Office is increasing year by year, with ever diversifying concerns. There are times when we have difficulty finding the solution, but we are working hard to figure out the best support we can



Easy-to-make my home recipes shared by faculty and staff

職員が投稿した我が家の簡単レシピ

provide in collaboration with the other departments of ICU. As aforementioned, the kinds of concerns brought into counseling sessions are diversifying and the students' situations and hopes are varying as well. They sometimes do not wish to receive the support we believe is necessary. When we encounter a student caught up in distress, we think together as a team and do our best to support that student out of his/her trouble.

We feel it was really worth when we see a student, who used to frequently visit our Office, gradually regain confidence and strength to get along on his/her own. It's very rewarding. Many international students express their gratitude for the service we offer. Some even visit us just to say thank you. We feel so happy if we're able to help mitigate their anxiety in living overseas. We have a lot to learn from talking with international students, because they make us aware of the differences in culture and healthcare systems. They even bring unexpected pleasant discoveries such as one of our staff looks very much like a famous comic

book character popular in Argentina.

Promoting health education for students, faculty and staff

At present our activities are centered on aspects directly linked to campus life, such as daily diet and student interaction, but we hope to expand our activities and offer health education that would have a lasting effect throughout the students' lives. There are lots of useful information that students should know while still young in order to lead a healthy and enriched life. The challenge is to have busy students become interested in them.

We also hope to fulfill our role as workplace healthcare providers in providing counseling and education and collaborating with other stakeholders, so that all faculty and staff can stay healthy and enjoy working at ICU. We believe it requires continuous efforts including team building and staff training to realize optimal services for students, faculty and staff.

ヘルスケアオフィスの概要

場所:大学本館3階310

人数:専任職員1人、派遣職員3人、校医兼産業医1人

開室時間:

[平日] 9:30 ~ 17:30

[土曜] 閉室

[日祝] 閉室 (祝日開講日のみ9:30 ~ 17:30)

Health Care Office Outline

Place: University Hall third floor 310

Staff: one permanent staff, three temporary staff members and one university/

occupational physician.

Opening hour:

Weekdays: 9:30–17:30 Saturdays: Close

Sundays and holidays: Close (*When classes are held, the office is open 9:30-17:30.)

From The Alumni House

Financial ICU支部 IdeaExchange & Networking

文:青木正彦(22 ID78)



Financial ICU支部では2019年1月 29日にID78からID18までの26人が参 加し、新年会を兼ね今後の支部活動の ひとつに「同窓生の仲間に資産形成・ 運用について学ぶ場を提供すること」 を掲げることについて意見交換を行い ました。

冒頭に、資産運用業界で長年勤務 している篠原滋さん(28 ID84)から 「誰でも実行できる資産運用法」と題 し、長年の経験から最善と考えるシン プルかつ具体的な資産運用法をレクチ ャーして頂きました。

その後の議論は出席者のほぼ全 員が発言するという活発なもので、 Networkingの時間に食い込むほどで した。和気あいあいとした雰囲気の中 でも人生100年時代だと言われる今だ からこそ、みなさんの関心が高いのだ と感じました。

尚、レクチャーは大変好評でしたが、 聞く対象や内容を検討する必要がある との意見もあり、3時間では結論に至 たらず、支部活動として具体的にどの ような形で進めてゆくのかを更に詰め てゆくことになりました。

ICU祭での「1966年~1970年の ICUを振り返る」展示とトークイベン

文:根本敬、村田広平(共に24 ID80)



『週刊アンポ』NO.4 より(1969 年 6 月 7 日本館前)

来る2019年11月3日(日)、4日(月・ 祝)、今年度のICU祭において、現役 ICU生と共催で、「ICU史再考 1966~ 1970」という展示をすることになり ました。場所は本館内の教室です。当 時の関係者やICU出身者においでいた だいて、トークイベントも開催できる よう準備中です。ご協力いただける方 からのご連絡を心からお待ちしていま す。

また、この件に関しては、1977年来、 ICUの主要学生メディアである『ウィ ークリー・ジャイアンツ』にも関連記 事が掲載される見込みです。皆様のご 協力とご参加をお待ちしてます! 連絡先:

konpeito801209@bb-unext01.jp

Peace Bell Scholar支部 ランチ会報告



5月29日(水)昼、ダイアログハウ ス内の大学食堂にて第1回PBSランチ 会を開催致しました。1年から4年生 まで約20人が集まり、丸テーブル3つ を囲みました。新社会人の藤田悦生さ

ん(63 ID19) らも駆けつけ、短い時 間ではありましたが、ランチを囲みな がら学年の垣根を越えて話に花を咲か せました。

PBS同士が集まる機会はこれまで 授与式や報告会などフォーマルな場が 多かったため、より緩やかにお互いを 知り、繋がる、良い機会になったので はないかと思います。卒業した先輩と 外でも集まりたいとか、秋には何かイ ベントしようとか、様々な声があがり、 次に繋がりそうです。また、準備から 当日の運営までご協力頂いた大学関係 者の方々にお礼申し上げます。

PBS支部は、PBSとその寄付者(ド ナー)、同窓会との持続的な交流の機 会を設け、PBSの認知を図るととも にその継続に繋がる活動をしていくこ とを目的に、2017年7月に設立され ました。今回のような取り組みを通 じてPBS同士の繋がりを深めながら、 ドナーの方々より託された想いを次世 代へと伝えるべく、今後も、支部の活 動を更に活発化していきたいと思って います。

ワシントンDC同窓会報告

文:清水素子(32 ID88)



ICU Alumni DC Chapter met on May 5, 2019 at a social room in Ms. Stephanie Benfield's, condominium. We also launched a mini lecture series by the Chapter members.

We congratulated and sent well-wishes to three members who are just about successfully completing their study in the US: Mr. Ryosuke Kishi(64 ID20), who is a current ICU student and an exchange student in Georgetown University: Mr. Yusaku Kawashima(53 ID09), who will be completing his 2nd Master's Degree in International Economics and Finance at Johns Hopkins University SAIS; and Mr. Reiji Taniguchi(49 ID05), who is currently studying in Georgetown University Law School as a visiting scholar. We, the DC Chapter, hope to see them again in the near future.

デンマーク支部マルメ散策会の報告



デンマーク支部では、隣国スウェー デンとノルウェーに在住の同窓生の方 にも参加を呼び掛けたことがあり、何 人かの方がこれらの国から支部会員と して加わっています。支部の集まりは これまで、主にデンマークの首都コペ ンハーゲンとその近郊で開いて来まし たが、今回初めて、海峡を挟んだスウ ェーデン側、マルメの町での散策会が 開かれました。

祝祭日が続くこの時期の半ば、5月 18日にデンマークからは4人、トンネ ルと橋からなる16kmのルートを電車 でスウェーデンに渡り、マルメ駅でス ウェーデン在住の4人(家族含む)と 合流。その後街中の散策へと繰り出し ました。

石畳の道や広場に沿って、木組みの かわいらしい家並みとルネサンス様式 の豪華な建物が並ぶ旧市街には、コペ ンハーゲンとはまた違う雰囲気があり ました。昼食は明るくてモダンなべト ナム料理レストランで、おいしい春巻 きや麺料理をいただきました。ICU在 籍当時の三鷹や吉祥寺の行きつけのお 店、キャンパスの様子、寮生活の思い 出話などに花が咲いたのは、言うまで もありません。昼食後にはお堀沿いの

自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ **名言語白然七上、**プ つくろう 夕言品日杰十

小学生~大学生年代を中心に、多言語 多世代の人々が 自然の中で活動し、国や文化の違いをこえて友情を育む プログラムです。

【国内キャンプ】(3泊4日・長野・小4~大人)

- ●雪の学校:雪の活動と多世代・多言語交流。
- ●Nature Camp: 夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】(1週間前後・8月開催)

- ●アジア青少年多言語自然キャンプ&ホームステイ
- 中1~大人。タイでの自然体験と現地家庭でのホームステイ。
- ●アジア青年多言語合宿&ホームステイ
- 高1~大人。上海の研修施設での合宿と現地家庭でのホームステイ。



Multilingual Natural Immersion どんなことばにも関かれた心を育るる





多言語を学ぶ意味

大和田康之 (国際基督教大学1期生)

私がこれからを担う真のリーダーシップについて 必要だと思うのは「多言語を話す」というスタン

スです。多言語を話すということは、「違ったことば、価値 観を持った人を自分の中に受け入れる」ということです。 それは自分が人間としてより豊かになることです。ヒッポで はまず相手の言語を大切にしようというスタンスで手言語を 学んでいます。そんな世界がひろがっていくことに、ことば を学ぶことの本質的な意味があるのではないでしょうか。

● お問い合わせは、下記フリーダイヤルまたはホームページから

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル3F ヒッポ 検索 TEL.03-5467-7041 http://www.lexhippo.gr.jp/

公園に足を延ばしました。公園ではサイクリングをする人、緑濃くなった木々の間を散歩する人、カフェで家族・友人同士の歓談に興じる人……、思い思いに休日を楽しんでいました。そして散策会の最後には、海岸から長く伸びる桟橋の先にあるサウナに行きリラックスとデトックス。楽しみたっぷりな一日になりました。

ICUから遠く離れた地で、こうしてご縁ができた同窓生同士で親交を一層深め、間もなく日本に帰国する同窓生の方とも再会を誓い合い、散策会はお開きになりました。

ニューヨーク支部・お花見 in セントラルパーク開催のご報告

文:大沢泉(48 ID04)



待ち遠しかった春がようやくやって来たニューヨークは、ここ1、2週間の間に一気に草木が芽吹き、様々な花が競うようにあちこちで開花して、良い季節を迎えております。

4月14日の日曜日、今年で3回目となるニューヨーク支部のお花見がセントラルパークにて開催されました。直前まで天気予報が心配された中、当日は結局一度も雨に降られることなく、うす曇りではありましたが、満開の桜の下で、和やかなお花見ピクニックとなりました。今回はID95から17までの同窓生とそのご家族、ご友人合計23人が集まり、それぞれに持ち寄ったお弁当やお菓子を囲んで楽しいひと時を過ごしました。

桜の咲くこの季節は、美しいICUのキャンパスがますます恋しくなりますが、同窓生同士で思い出話に話を咲かせることで、より一層親睦が深まり今後のネットワーク作りにもゆるやかにつながって行くのでは、と期待しております。 ニューヨーク支部は、初めてこちらにいらした同窓生、出張中の方、ICU高校卒業生、大学院修了生、OYRから、もちろん現役生まで歓迎します。お問い合わせは、ny-chapter@icualumni.com まで。facebook NY Chapter group pageもご参照ください:https://www.facebook.com/groups/icunewyork/

沖縄支部会報告

文:新崎盛太(43 ID99)



去る3月2日に、同窓会沖縄支部の

定例会が開催されました。沖縄支部の 定例会は沖縄県内の高校からICUへ新 たに入学する新入学生への激励会も兼 ねており、高校生7人を含む、上は沖 縄から初めてICUに進学された9期生 の嘉数昇明さんから、下はID16の卒 業生までの16人のメンバーが参加し ました。学生時代の思い出話やICUに 対する思い、高校生への叱咤激励など 楽しく盛り上がることができました。

3月に入って暖かい日が続いており、 沖縄では桜も散り始めており、過ごし やすい日が続いています。こうした中、 本当に素晴らしい会を開くことができ ました。

同窓会沖縄支部では常時メンバーを 募集しております。ICUに縁のある方 で、沖縄出身の方、沖縄に在住中の方 または、そのような方をご紹介頂ける 方は、下記メールアドレスまでご連絡 をお待ちしています。

連絡先: okinawa-chapter@icualumni. com

香川支部2019年度の会報告

文:浜崎直哉 (37 ID93)



2019年7月27日(土) 18時 よ り 高松市内の「nagara」にて、香川支部2019年度の会を開催いたしました。5期から57期までの、香川在住の卒業生12人(木村眞理子さん(28 ID84)・岡田豊さん(51 ID07)が初参加)と、東京から木越純さん(前同窓会会長 27 ID83)・恵子さん(22 ID78) ご夫妻が参加され、総勢14人での会となりました。

冒頭に浜崎支部長(37 ID93)より、香川支部の現状報告と、2018年8月に香川県の豊島で行われたICUの人類学調査実習の報告書についての説明が行われ、その後末吉高明会長(16)による乾杯の発声で和やかに会はスタートしました。ちょうど瀬戸内国際芸術祭の期間中でもあり、木越さんご夫妻も観光に訪れていて、瀬戸内の島の話がいろいろ出るなど、楽しい会合となりました。

今年1年で、新たに5人の卒業生と連絡がつき、香川支部に登録されている卒業生は31人となりました(名誉会員・平田オリザさん/30 ID86、および県外会員含む)。卒業生が少ないエリアの割には、それなりの数になってきましたので、卒業生同士のゆるい交流をベースにしながら、今後の活動の展開をいろいろ考えていきたいと思っています。

ICU心理臨床家の集いの報告

文:松岡展世(G1998)



2019年2月10日に、アラムナイハウスにてICU心理臨床家の集いが開催されました。25回目を迎える今回は、「心理臨床家の成長とセルフケア」をテーマに3人の方に語っていただきました。

船間千鶴氏 (G2010) は模造刀を 手に、居合や自然に身を置く中での体 験についてお話くださいました。居合 を語る凛とした佇まいとともに、「海 に向かう海亀のあまりにゆっくりした ペースに触れると、最初は焦れるが 徐々に自分のペースも緩んでくる」と いう話が心に残っています。

湯野貴子氏(G1993)は地歌舞(上方舞)の名取として山村若静京というお名前をお持ちで、美しい着物姿で、舞の奥深い世界について語ってくださいました。Physicalな動きをすることによってその瞬間の心の機微の理解が深まるという話からは、理解するという営みが身体や五感の気づきと深く結びついていることを感じました。

杉山恵理子氏(G1997)は、これまでの臨床の旅の軌跡をご自分の思いやライフステージにおける意識の変化も交えてお話くださいました。今の幅広いご活躍が、誠実に臨床に向き合い続けた日々の積み重ねにあることに勇気づけられ、また、後輩への温かいエールを感じて体がじんわり熱くなりました。

栗原和彦氏(G1979) から25周 年記念の素敵な手作りデコレーショ ンケーキの差し入れがあり、歓談の 話も弾んでいました。苫米地憲昭氏 (G1972) のリードによるプチ瞑想体 験は、みんなの中で一人になって「い ま・ここ」の自分(身体)を感じる貴 重なひとときでした。その後、全員で 一言ずつ分かち合う時間では、それぞ れの「今」と人のありようがモザイク のように美しく綾なしていて、ICU× 臨床家で集うこの会の豊かさを実感し ました。この集いを25年にわたって 育んでこられた諸先輩方、そして、い つも温かく支えてくださる事務局の渡 辺暁里氏(40 ID96)、寺島吉彦氏(35 ID91) に心から感謝いたします。

心理臨床に携わるICU卒業(修了) 生の方へ。ぜひ集いにご参加ください。年に1度の例会に参加できなくて もメーリングリストに登録でき、情報 交換ができます。詳しくはICU心理臨 床家の集い事務局 icutsudoi@yahoo. co.jpまでお問合せください。

台湾支部会報告

文: Michael Guo (G1989)



今年の支部会は、台中にて行われる 予定でしたが、台中在住の出席者人数 が減少したため、急遽台北に変更しま した。3月9日のお昼、あいにくの大 雨で気温の低い台北市内の「ここはい つも晴れ」という店名の洋食レストラ ンにて開催されました。平成最後の野 沢彩さん(39 ID95)の歓迎会も兼ねて おり、卒業生と家族を含めて、合計8 大が出席しました。会食の前に、台南 在住の黄英甫さん(院1973)ご夫婦 が、わざわざ台南からお持ちくださっ た石鹸のプレゼントを出席者全員に配 りました。

台中在住で、現在台湾支部最年長、御年80歳の孫景富さん(4)は、お一人でわざわざ台中からお越し頂き、若い後輩に全然負けないご健勝ぶりが参加者を活気づけて下さいました。呉陳愛霞(ビッキー)さん(13)もご主人と共に、2年ぶりに支部会に元気な姿を現しました。外は三月にしては異例の雨や寒さにもかかわらず、店の中は店名のように晴れ晴れしく、熱気あふれる会話と美味しい料理で、あっという間に2時間は過ぎて、別れが切ない位の支部会でした。

ID00(44期)同窓会開催のお知らせ、 及び広報に関するお願い

文:佃隆(44 ID00)

「ID00……?!」と先輩方に驚かれながら、入学と同時にミレニアムの風を吹き込んだのも遠い昔となりました。そんな私たちが来年ついに卒業20年を迎えるにあたり、満を持してID00同窓会を開催したいと思います。少々先になりますが、ご予定のほどよろしくお願いします。※詳細は別途お知らせいたします。

2020年5月24日(日)昼頃~ICU 学食にて。また、現在繋がりのある ID00同窓のお仲間がいらっしゃい ましたら、同窓会名簿への最新情報 登録 / Facebook「ICU00」グルー プ(https://www.facebook.com/ groups/ICU00/)へのご案内をお願い できますでしょうか?

当日は多くの皆さまと再会し楽しい 時間を過ごせることを、心より楽しみ にしております!

※2021年には学長主催ICU入学25 周年記念祝賀会も予定されているそう です。そちらも楽しみにお待ちくださ

幹事:朝倉(杉本)志津・請盛敏 寿・大田原裕美・鈴木祐子・信太隆・ 佃隆・山崎丁巳生 11月 3 & 4 (日·祝) (月·休

November 3 & 4 (Sun) (Mon)

ICU祭のご案内

2019年ICU祭の季節がやってきます

ICU祭が近づいてまいりました。同窓会では恒例DAY受賞者トークや大学との共催ホームカミングイベントなど、皆さんご一緒にお楽しみいただけるイベントでお待ちしています。また、本館前テントでは同窓生・佃隆先生のご厚意による「チャリティ整体」、アラムナイハウスでは「アラムナイカフェ」や楽しい同窓会グッズもご用意しています。キャンパスでは新しいテニスコートと新体育館とともに現役ICU生たちの元気な姿も見られます。ぜひ、キャンパスにお出掛けください!

文: 櫻井淳二 (同窓会会長)

ICU Festival

Season for the ICU Festival has come!

The ICU Festival is fast approaching. The Alumni Association has put together events to enjoy, such as the time-honored talk by the Distinguished Alumni of the Year (DAY) and the Homecoming, co-sponsored with the University.

An alumnus and chiropractor, Takashi Tsukuda will offer charity treatment in the tent in front of University Hall. Alumni House will host the Alumni Cafe and sell all sorts of fun alumni goods. On the campus, the roofed tennis courts and the new physical education center have been completed. Please do visit the campus and meet the current batch of lively ICU students!

Junji Sakurai, Alumni Association President

同窓会企画イベントのご案内

大学・同窓会共催 2019 ホームカミング 「本館と理学館、その未来を探る」

11月3日(日) 13:30開演@ダイアログハウス2階 国際会議室

今年のテーマは献学以来の歩みを支えてきた本館と理学館など、キャンパスの施設の今後です。学生時代の思い出が詰まった建物もさまざまな整備が必要になっています。大学による「ICUの施設整備の現状と展望」についての説明や、同窓生による新校舎に関する提案発表など未来志向のプログラムになる予定です。詳細は同窓会のWebサイトやFacebookにて随時更新していきますのでご確認ください。 文:長谷川攝 (同窓会大学・募金部担当副会長)

Alumni Association Event

Homecoming Event "Honkan and N-kan, the future of ICU's buildings and more"

November 3 (Sun.) from 13:30 @ International Conference Room, Dialogue House (2F)

This year's theme concerns the buildings that represent the history of ICU such as Honkan and N-kan, where each of you have made many memories. They need various renovations and maintenance for the next generation of students to use them. This future-oriented program will include a presentation on the latest campus plan by an ICU officer and short presentations on a new school building by alumni. More details will follow on Alumni Association website and on Facebook.

Setsu Hasegawa, Vice President in charge of University & Fundraising Section

DAY受賞者トーク (安藤公秀氏)

11月4日(月/休) 13:30~14:30@アラムナイハウス2階ラウンジ 「パキスタンとかで考えたり、やったこと」

今年のDAYトークは、3月の桜まつりでDAY賞を受賞された、三菱商事前パキスタン総代表・安藤公秀氏(26 ID82) をお招きします。20年に渡り日・パ両国の架け橋として貢献され、2018年3月には「パキスタンの星」最高栄誉賞を受勲されています。ICU祭のひと時、ご一緒に伺いませんか?

文:木越純(DAY 賞選考委員長)

DAY Talk Mr. Kimihide Ando

November 4 (Mon) from 13:30~14:00 @ Lounge (2F), Alumni House

Mr. Kimihide Ando (CLA 26, ID 82), honored with the DAY Award at the this year's Sakura Festival, was the CEO of Mitsubishi Corporation Pakistan, and worked to forge links between Japan and Pakistan for the past 20 years. In March 2018, he was conferred the Star of Pakistan medal, the country's highest award for a private sector individual. At this autumn ICU Festival, come along to listen to the distinguished alumnus.

Jun Kigoshi, Chairman, DAY Selection Committee

アラムナイカフェ

両日、開店時間11:00~16:00@アラムナイハウス2階ラウンジ

今年も開店します。ICU祭見学や同窓会イベント参加の前後に、ICUワインやコーヒーで寛ぎのひとときを。ぜひお立ち寄り下さい。

Alumni Cafe

Opening Hours: 11:00 ~ 16:00 @Alumni House (2F)

Drop by for a glass of ICU wine or a cup of coffee and relax a while before or after the ICU Festival or Alumni Association events!

チャリティ整体

両日、受付時間10時30分~15時@本館前テント

2002年より毎年恒例の「チャリティ整体」。姿勢に関する著書を2冊出版している姿勢の専門家佃 隆先生(44 ID00)の姿勢チェック&ワンポイントカイロプラクティック施術が体験できます。

Charity Chiropractic

10:30 – 15:00, Sunday & Monday, in front of University Hall

Chiropractor Takashi Tsukuda (CLA 44, ID 00) has written 2 books on good posture. Eversince 2002 and this year again, Tsukuda will be available for a posture check-up and brief treatment.

寄付者御芳名 Donors

三好正夫 (9)

樺島榮一郎(37 ID93)

貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございます。

たずね人 Missing

池田英人(35 ID91)

深見淳(43 ID99)

田中智己(49 ID05)

金ボラム (55 ID11)

GUERRERO MAURICIO Jose Carlos

(60 ID16)

動静をご存知の方は事務局までご一報く ださい。

訃報 Obituary

櫻井茂治 元教員

海老名正 元職員

船津祥(1)

田中孝男(1)

栗原成光(1)

橋場徹(2)

石川靖児(2)

荒瀬正彦(2)

湯浅太郎(4)

佐々木幸彦(5)

横田洋三(8)

鶴岡昌道(9)

TEICHLER(浦田) 曜子(10)

白土(郷野) 須美子(11)

伏原洋三(13)

似鳥(金子)和枝(15)

大沢睦夫(15)

赤司正文(17)

松本(田幡) 和子(17)

岸田澄江(31 ID87)

谷田部庄一(G1961)

心よりお悔やみ申し上げます。

■大学・同窓会に関する情報が

満載です。ぜひ一度ご覧ください。

同窓会 Web サイト

全面リニューアル。スマートフォンでも読みやす くなりました。

https://www.icualumni.com/

同窓会 facebook

https://www.facebook.com/

icualumniassociation

大学 Web サイト https://www.icu.ac.jp JICUF Web サイト http://www.jicuf.org/

■ 同窓会広報部(ALUMNI NEWS 編集部)

Email: kohou@icualumni.com

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。 フルサイズ6万円、ハーフサイズ3万円で承っております。ご 興味のある方は、詳細を事務局ま でお問合せください

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオンなどの案内・報告をお寄せください。本誌および Web サイトに掲載いたします。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール(aaoffice@icualumni.com)または同窓会のWebサイトの住所変更から、ご一報ください。地方・海外にご転勤の際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問合せください。携帯の方はこちらからどうぞ:



★ ご協力をお願いします

大学の宣伝=大学への支援という 考え方から、同窓生の著作、雑誌 インタビューなどには、略歴欄に 「国際基督教大学卒業」とお入れ いただけますよう、お願い申し上 げます。

<予告>2020年桜祭り

2020年3月28日 (土)

10時30分開式

総会・DAY賞表彰式・卒業50周

年記念式典(14期生)

懇親会 於 大学食堂

於 大学礼拝堂

福利厚生プログラム ICU同窓会WELBOXのご案内

同窓会では、株式会社イーウェル が運営する「WELBOX」という福 利厚生プログラムを導入しています。 会員制リゾートホテル・ハーベスト が利用できるほか、国内宿泊のお得 なプラン、映画や東急ハンズの割引、 ヘルスケア、保育サービスなど、多 様な優待プログラムが準備されてお り、同窓会員本人だけでなく、兄弟 姉妹や子、孫、祖父母まで利用する ことができます(2親等以内の家族)。 なお、終身会費をお納めいただい ていない方はWELBOXのご利用登 録ができません。ご不明な点は、同 窓会事務局までお問い合わせくださ い。詳しくは、以下で。

https://www.icualumni.com/ to alumni/welbox/

文字が大きくなりました

「文字が小さく読みづらい」というご意見をいただき、今号より一回り大きくしました。誌面づくりに関してご意見ご感想お待ちしております。

STAFF

EDITOR IN CHIEF

神内一郎 JINNAI,Ichiro (33 ID89/G1992)

MANAGING EDITOR

安楽由紀子 ANRAKU, Yukiko (40 ID96)

EDITORS

鈴木律 SUZUKI, Ritsu (23 ID79) MOCHIZUKI, Atsushi (26 ID82) 望月厚志 新村敏雄 SHINMURA, Toshio (27 ID83) IKESHIMA, Hiroko (27 ID83) 池島広子 星川菜穂子 HOSHIKAWA, Naoko (40 ID96) ENOHARA, Nozomi (53 ID09) 榎原望美 TANIZAWA, Satoshi (54 ID10) 谷澤聡 杉岡隆 SUGIOKA, Takashi (62 ID18) TAKIZAWA, Takahiro (62 ID18) 滝沢貴大 NAKAJIMA, Haruka (65 ID21) 中島谣 G2008 Samantha H. LANDAU

PHOTOGRAPHER

丸毛徹 MARUMO,Toru 中島正之 NAKAJIMA,Masayuki

ART DIRECTOR

佐野久美子 SANO,Kumiko (44 ID00)

PRINTING DIRECTOR

坂井健 SAKAI, Takeshi (小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR

松島眞理 MATSUSHIMA, Mari (36 ID92)

PUBLISHER

櫻井淳二 SAKURAI,Junji (28 ID84)

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみなさまのために制作しているものです。 今後の制作の参考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物の紹介等がある方は、メールにてお気軽に事務局までお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみませんか?企画、取材、執筆、撮影、編集進行等を一緒にやって頂ける方を大募集中です。もちろん未経験でも可。最初は一緒に取材などを行いながら編集のプロから直接技術を学べますし、3年ぐらいやれば、一通り編集の基本が身に付きます。もちろん、現役の学生さんも大歓迎です。興味のある方は、同窓会事務局へメールでご連絡ください。

aaoffice@icualumni.com

cover photo: Ichinose, Chihiro (42 ID98) backcover photo: ANRAKU, Yukiko (40 ID96)

- DAY賞候補者をご推薦ください ---

Distinguished Alumni of the Year (DAY) 賞は、国際基督教大学に在籍したことのある方 (卒業生・留学生・教職員。ただし故人は対象外)の中から、大学および同窓会の知名度・魅力度を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるために贈呈されます。皆様からのご推薦をお待ち申し上げております。

※推薦は年間を通して受け付けておりますが、前年10月15日受け付分までを選考対象として翌年の桜祭りで受賞者を表彰します。 ※受賞者は同窓会Webサイトで発表するとともに、アラムナイニュースでお知らせいたします。

※推薦および選考については公開されません。

※自薦・他薦を問いません。

※推薦方法 WebフォームからもDAY賞候補者推薦ができるようになりました!

https://www.icualumni.com/activities/day/

Webサイトの「DAY賞」のページから[推薦フォーム] に、あるいは[推薦用紙PDF]をダウンロードして、必要事項をご記入の上ICU同窓会事務局あてにお送りください。 郵送/FaxまたはE-mailで受け付けております。

※必要事項

・推薦したい方の氏名と卒業年、あるいは在籍年(分かる範囲で)

・推薦理由(新聞記事などの客観的資料があれば併せてお送りください)

・あなた(推薦者)の氏名と卒業年

・あなた(推薦者)の住所・Tel.・E-mailアドレス

※歴代受賞者名もWebサイトに掲載しております。



ICU同窓会事務局 〒181-8585東京都三鷹市大沢3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320 E-mail: aaoffice@icualumni.com

